

害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス
 第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
 第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ眞據シ又ハ貸貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル
 第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
 第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

●刑法施行法 (明治四十一年三月二十八日) 法律第二十九號

改正 明治四十二年第四號第三九號、四三年第五三號、大正五年第一五號第一七號、一〇年第六八號、一一年第七一號、昭和二年第四七號
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 刑法施行法
 第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ

公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルコトヲ謂フ
 第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム
 刑法ノ刑
 舊刑法ノ刑
 死刑 死刑
 無期懲役 無期徒刑
 無期禁錮 無期徒刑
 有期懲役 有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮、輕禁錮
 有期禁錮 有期徒刑、重禁錮、輕禁錮
 罰金 罰金
 拘留 拘留
 科料 科料
 第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ
 數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ
 一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個

以上ノ主刑中其一ノ刑ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノ規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ
 第四條 刑法施行前ニ舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セズ
 第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セズ
 第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑ノ例ニ依リ
 一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス
 二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル
 第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ

裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ適用ス
 一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者
 二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ免除ヲ得又ハ減輕ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者
 刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ適用ス
 第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス
 第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一罪ト關スル規定ヲ適用ス
 前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪

下刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル
 規定ヲ適用ス
 第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタ
 ル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合
 ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキ
 ト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關
 スル規定ヲ適用ス
 第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確
 定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁
 判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又
 ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付
 キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス
 第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後
 有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定
 ヲ適用ス
 第十三條 第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第十四條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令
 ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時
 效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ適用ス但罰金又ハ科料ヲ完納
 スルコト能ハサル者ヲ勞務場ニ留置スル場合ニ於テハ
 檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可
 シ
 前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號

布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ
 舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時
 效期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關ス
 ル規定ニ從フ
 第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ
 刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ適用ス
 前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲
 ス可シ
 第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ
 免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出
 獄ニ關スル規定ヲ適用ス
 第十六條 刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ
 拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法
 第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ適用ス但留置ノ日數ハ
 其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコ
 トヲ得ス
 第十七條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ
 例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感
 化院ニ入院セシムルコトヲ得
 第十八條 關席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其
 言渡ノ日ヨリ起算ス
 第十九條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言
 渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル

附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス
 附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ
 亦前項ニ同シ
 第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ
 刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁
 錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス
 他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加
 ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス
 第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金
 額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサ
 ル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル
 規定ニ從フ
 第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可
 キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加
 減例ニ關スル規定ニ依ル
 第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法
 ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合
 ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ
 規定ニ變更ス
 第二十三條 爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス
 合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ
 之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ

關スル規定ニ從フ
 第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十
 三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス
 第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ內刑
 法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス
 一 第二編第四章第九節
 二 第二編第五章第三節
 刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ
 之ヲ前項ノ規定ニ適用ス
 第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從
 フ
 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
 二 削除
 三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪
 四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪
 五 船舶法ニ掲ケタル罪
 六 船員法ニ掲ケタル罪
 七 船舶職員法ニ掲ケタル罪
 八 船舶検査法ニ掲ケタル罪
 九 戶籍法ニ掲ケタル罪
 第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從
 フ
 一 著作權法ニ掲ケタル罪
 二 左ニ記載シタル罪ハ舊刑法ニ

二 削除
 三 移民保護法ニ掲ケタル罪
 第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ罪名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ
 第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス
 第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス
 前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス
 前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス
 前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス
 第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス
 第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮

ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス
 第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス
 前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス
 第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス
 六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス
 六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス
 第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ヲ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受ケルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス
 第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 (大正十一年法律第七十五號刑事訴訟法ノ施行ニ因リ消滅)
 第三十九條 (同上)
 第四十條 (同上)
 第四十一條 (同上)
 第四十二條 (同上)
 第四十三條 (同上)
 第四十四條 (同上)
 第四十五條 (同上)
 第四十六條 (同上)
 第四十七條 (同上)
 第四十八條 (同上)
 第四十九條 (同上)
 第五十條 (同上)
 第五十一條 (同上)
 第五十二條 (同上)
 第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リテ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢察其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ
 前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢察ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ
 第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス
 第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得
 第五十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得
 第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス
 第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ノ之ヲ廢止ス
 第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式

ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ヲ
シト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢
止ス

●刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有スル舊刑法ノ規

定 (刑法施行法第二十

條及第三十七條)

第四十(左ノ規定ハ刑法施行法第二十五條ニ依リ當分ノ
舊刑法(明治十二年太政官布告第二十六號)

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九節 (公選ノ投票ヲ偽造スル罪
第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シ
タル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ
受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮
ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者投

票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕
禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其
數ヲ増減シ其他詐欺ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下
ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第五節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防規則ニ設ケタル規則ニ違背
シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタ
ル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以
上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯ス
コトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流
行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕
禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背
シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ
輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 刺奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

明治三十九年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス

●刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名

二 關スル件 (勅令第百二十號)

廢刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル
件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廢刑法施行後施行ノ命令ニ於テ人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關
シ掲ケタル刑法ノ刑名ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外
左ノ例ニ從ヒ對照シタル舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑
法ノ刑名ヲ包含ス

死刑 舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑
懲役 舊刑法、舊陸軍刑法、舊海軍刑法、重懲役、輕懲役、
禁錮 舊刑法、舊陸軍刑法、舊海軍刑法、無期流刑、有期流刑、重禁獄、輕禁獄、
罰金 舊刑法、舊陸軍刑法、舊海軍刑法、無期禁錮、有期禁錮、輕禁錮、
拘留 舊刑法、舊陸軍刑法、舊海軍刑法、科料 舊刑法、舊陸軍刑法、舊海軍刑法、
科料

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
勅令第三項ハ之ヲ廢止ス

●刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

勅令第百二十七號
明治四十一年九月二十四日

廢刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

廢刑法施行中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布
シタル命令ニ之ヲ準用ス

附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

勅令第百二十七號
明治四十一年九月二十四日

廢刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

廢刑法施行中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布
シタル命令ニ之ヲ準用ス

附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

決闘罪ニ關スル件 爆發物取締罰則

●決闘罪ニ關スル件 (明治二十二年十二月三十日)

- 第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス
- 第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラヌ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第五條 決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ
- 第六條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス
- 第七條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

●爆發物取締罰則 (明治十七年十二月二十七日)

改正 明治四一年法律第二九號、大正七年

- 第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫唆使煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者

第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

- 第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 第一條乃至第五條ノ犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第九條 第一條乃至第五條ノ犯罪者ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第十條 (廢止)
- 第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ其刑ヲ免除ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ
- 第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

●治安維持法 (大正十四年四月二十二日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安維持法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

治安維持法

- 第一條 國體ヲ變革シ又ハ私有財產制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第二條 前條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第三條 第一條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第四條 第一條第一項ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財產ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 第五條 第一條第一項及前條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財產上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者モ亦同シ
- 第六條 前條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス
- 第七條 本法ハ何人ヲ問ハス本法施行區域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者モ亦之ヲ適用ス

暴力行為等處罰ニ關スル法律 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模
造ニ關スル件

三四

大正十二年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

●暴力行為等處罰ニ關スル法律

(大正十五年四月十日)
法律第六十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル暴力行為等處罰ニ關スル法律
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假
裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑
法第二百八條第一項、第二百二十二條又ハ第二百六十
一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以
下ノ罰金ニ處ス

第二條 財產上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ
前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ
行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰
金ニ處ス

第三條 第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十九條、
第二百四條、第二百八條第一項、第二百二十一條、第二
百二十三條、第二百三十四條、第二百六十條又ハ第二
百六十一條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ

常習トシテ故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ
爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ
前條ノ例ニ同シ

第三條 情ヲ知テ偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタ
ル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタ
ル者ハ輕懲役又ハ六月以上五年以下ノ重懲役ニ處ス
收得シタル後其ノ偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ
若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ名
價三倍以下ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得
ス

第四條 第一條ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシム
ルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準
備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年
以下ノ重懲役ニ處ス

第五條 販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ
紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ
輸入シタル者ハ二年以下ノ重懲役又ハ二百圓以下ノ罰
金ニ處ス

第六條 前數條ニ規定シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂
ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者
ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

印紙犯罪處罰法

明治三十七年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

財產上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束
ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與テ受ケ又ハ其ノ要求若
ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下
ノ罰金ニ處ス

第一條 第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯サ
シムル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下
ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

●外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造
變造及模造ニ關スル件 (明治三十八年三月二十日)
法律第六十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣
銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム

第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノ流通
スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ偽
造シ又ハ變造シタル者ハ重懲役又ハ輕懲役ニ處ス
金銀貨以外ノ硬貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ輕懲役
又ハ二年以上五年以下ノ重懲役ニ處ス

第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ニ係ル
第八條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者偽造又ハ變造
ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前
又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ
於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判
ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯
人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執
行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第
五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何
人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

第十一條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及
第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ
準用ス

附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十七年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

●印紙犯罪處罰法 (明治四十二年四月二十八日)
法律第三十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル印紙犯罪處罰法ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

印紙犯罪處罰法ニ關スル件

三五

- 第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ
- 第二條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ
- 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
- 第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第四條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
- 第五條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス
- 官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 法人ノ役員處罰ニ關スル件 (大正四年六月二十一日) 法律第十八號
- 法人ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、監査役又ハ監事ニシテ刑事訴訟又ハ刑ヲ執行ヲ免レシムル爲合併其ノ他ノ方法ニ依リ法人ヲ消滅セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
- 附則 本法ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 警察犯處罰令 (明治四十一年九月二十九日) 內務省令第十六號
- 改正 大正八年第一七號
- 警察犯處罰令左ノ通り之ヲ定ム
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス
- 一 故ナク人ノ居住若ハ看守セザル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者
- 二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者
- 三 一定ノ住居又ハ生業ヲクシテ諸方ニ徘徊スル者
- 四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ヲ行爲ヲ爲シタル者

- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス
- 一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
- 二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者
- 四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
- 五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者
- 八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
- 九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者
- 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其

- 六 現場ヲ變更シタル者
- 十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十 官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者
- 二十二 入ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 二十三 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ榮果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ゲ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十一 濫ニ他人ノ身體ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 三十二 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場

- 所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
 - 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他ノ他ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
 - 三十四 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
 - 三十五 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
 - 三十七 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之ヲ保存ヲ爲シタル者
 - 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸程シ又ハ露部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
 - 三 警部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
 - 四 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
 - 五 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
 - 六 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
 - 七 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者

- 七 開業ノ產婆故ナク妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
 - 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
 - 九 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
 - 十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者
 - 十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
 - 十二 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ警逸セシメタル者
 - 十三 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
 - 十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
 - 十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貨家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
 - 十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 - 十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シ

タル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●刑事訴訟法目次

○刑事訴訟法(大正二、五、五日法七五號)

第一編 總則……………一

第一章 裁判所ノ管轄……………一

第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及ヒ回避……………三

第三章 訴訟能力……………五

第四章 辯護及ヒ輔佐……………五

第五章 裁判……………六

第六章 書類……………七

第七章 送達……………九

第八章 期間……………一〇

第九章 被告人ノ召喚、勾引及ヒ勾留……………一〇

第十章 被告人訊問……………一六

第十一章 押收及ヒ搜索……………一七

第十二章 檢證……………二二

第十三章 證人訊問……………二三

第十四章 鑑定……………二五

第十五章 通譯……………二七

第十六章 訴訟費用……………二七

刑事訴訟法目次

第二編 第一審……………二六

第一章 捜査……………二六

第二章 公訴……………三〇

第三章 豫審……………三三

第四章 公判……………三三

第一節 公判準備……………三三

第二節 公判手續……………三五

第三節 公判ノ裁判……………三六

第三編 上訴……………三六

第一章 通則……………三六

第二章 控訴……………三六

第三章 上告……………三九

第四章 抗告……………四〇

第四編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續……………四〇

第五編 再審……………四二

第六編 非常上告……………四二

第七編 略式手續……………四三

第八編 裁判ノ執行……………四三

第九編 私訴……………四三

第一章 通則……………四三

刑事訴訟法目次

第二章 第一審 六二

第三章 上訴 六三

附則 六三

○違警罪即決例(明治一八、九、二四日布告三三號) 六六

○刑事交涉案(大正一〇、四、二六日法九二號) 六七

附則 六七

○刑事訴訟費用法(大正一〇、四、二二日法六八號) 六九

附則 六九

○少年法(大正一一、四、二七日法四二號) 七〇

第一章 通則 七〇

第二章 保護處分 七一

第三章 刑事處分 七一

第四章 少年審判所ノ組織 七二

第五章 少年審判所ノ手續 七三

第六章 裁判所ノ刑事手續 七六

第七章 罰則 七七

附則 七七

○假出獄少年取締規則(大正一一、二、一八日司令三三號) 七七

附則 七六

○少年審判費用規則(大正一一、二、一八日司令三三號) 七六

附則 七九

○矯正院法(大正一一、四、一七日法四三號) 七九

附則 八〇

○矯正院處遇規程(大正一一、二、一八日司令三四號) 八〇

第一章 收容 八〇

第二章 教導 八〇

第三章 賞罰 八〇

第四章 給養 八〇

第五章 衛生及ヒ診療 八〇

第六章 面會及ヒ通信 八〇

第七章 領置 八〇

第八章 退院及ヒ假退院 八〇

第九章 逃走及ヒ死亡 八〇

附則 八〇

○陪審法(大正一一、四、一八日法五〇號) 八〇

第一章 總則 八〇

第二章 陪審員及ヒ陪審ノ構成 八〇

第三章 陪審手續 八〇

第一節 公判準備 八〇

第二節 公判手續及ヒ公判ノ裁判 八〇

第三節 上訴 九五

第四章 陪審費用 九六

第五章 罰則 九六

第六章 補則 九六

附則 九六

○陪審法施行規則(昭和二、五、二八日司令一六號) 九六

附則 九六

○陪審法ヲ樺大ニ施行(昭和二、五、二八日勅一四五號) 九六

○陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類(昭和二、五、二八日勅一四六號) 九六

附則 九六

○監獄法(明治四一、三、二八日法二八號) 九六

第一章 總則 九七

第二章 收監 九八

第三章 拘禁 九八

第四章 戒護 九八

第五章 作業 九九

第六章 教誨及ヒ教育 九九

第七章 給養 一〇〇

第八章 衛生及ヒ醫療 一〇〇

第九章 接見及ヒ信書 一〇〇

第十章 領置 一〇一

第十一章 賞罰 一〇一

第十二章 釋放 一〇二

第十三章 死亡 一〇三

附則 一〇三

○監獄法施行規則(明治四一、六、一六日司令一八號) 一〇三

第一章 總則 一〇三

第二章 收監 一〇四

第三章 拘禁 一〇五

第四章 戒護 一〇七

第五章 作業 一〇八

第六章 教誨及ヒ教育 一〇八

第七章 給養 一〇九

第八章 衛生及ヒ醫療 一〇九

第九章 接見及ヒ信書 一〇九

第十章 領置 一〇九

第十一章 賞罰 一〇九

第十二章 釋放 一〇九

第十三章 死亡 一〇九

附則 一〇九

刑事訴訟法目次

第一章 總則 一

第二章 裁判所ノ管轄 一

第三章 審判ノ程序 一

第四章 上級裁判所ノ管轄 一

第五章 審判ノ執行 一

第六章 裁判所ノ組織 一

第七章 裁判所ノ職權 一

第八章 裁判所ノ裁判 一

第九章 裁判所ノ裁判 一

第十章 裁判所ノ裁判 一

第十一章 裁判所ノ裁判 一

第十二章 裁判所ノ裁判 一

第十三章 裁判所ノ裁判 一

第十四章 裁判所ノ裁判 一

第十五章 裁判所ノ裁判 一

第十六章 裁判所ノ裁判 一

第十七章 裁判所ノ裁判 一

第十八章 裁判所ノ裁判 一

第十九章 裁判所ノ裁判 一

第二十章 裁判所ノ裁判 一

第二十一章 裁判所ノ裁判 一

第二十二章 裁判所ノ裁判 一

第二十三章 裁判所ノ裁判 一

第二十四章 裁判所ノ裁判 一

第二十五章 裁判所ノ裁判 一

第二十六章 裁判所ノ裁判 一

第二十七章 裁判所ノ裁判 一

第二十八章 裁判所ノ裁判 一

第二十九章 裁判所ノ裁判 一

第三十章 裁判所ノ裁判 一

第三十一章 裁判所ノ裁判 一

第三十二章 裁判所ノ裁判 一

第三十三章 裁判所ノ裁判 一

第三十四章 裁判所ノ裁判 一

第三十五章 裁判所ノ裁判 一

第三十六章 裁判所ノ裁判 一

第三十七章 裁判所ノ裁判 一

第三十八章 裁判所ノ裁判 一

第三十九章 裁判所ノ裁判 一

第四十章 裁判所ノ裁判 一

第四十一章 裁判所ノ裁判 一

第四十二章 裁判所ノ裁判 一

第四十三章 裁判所ノ裁判 一

第四十四章 裁判所ノ裁判 一

第四十五章 裁判所ノ裁判 一

第四十六章 裁判所ノ裁判 一

第四十七章 裁判所ノ裁判 一

第四十八章 裁判所ノ裁判 一

第四十九章 裁判所ノ裁判 一

第五十章 裁判所ノ裁判 一

●刑事訴訟法 (大正十一年五月五日)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法 第一編 總則 第一章 裁判所ノ管轄

第一條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル

第二條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得

第三條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第四條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

刑事訴訟法 總則 裁判所ノ管轄

第五條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

第六條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第七條 事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

第八條 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトシテ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

一 一人數罪ヲ犯シタルトキ

二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

第八條 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトシテ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

一 一人數罪ヲ犯シタルトキ

二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、誇憑運滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第九條 同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十條 同一事件事物管轄ヲ同シタル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十一條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十二條 訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第十三條 裁判所ハ管轄權ヲ有セザルトキト雖急速ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

一 裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所ノ定ラザルトキ

二 管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

第十五條 法律ニ依ル管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハザルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

一 管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハザルトキ

二 被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハザル虞アリタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ得

爲スコトヲ得

第十七條 犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十九條 檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第二十條 檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十一條 被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二十二條 豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條 判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一 判事被害者ナルトキ

二 判事私訴當事者ナルトキ

三 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戶主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ

四 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

五 判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六 判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

七 判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

八 判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其

ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルベキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二十六條 事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ理由アリシコトヲ知ラザリシトキ又ハ忌避ノ理由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ忌避スヘキ判事ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ示スヘシ

忌避ノ理由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ説明スヘシ

忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除ク外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ

第二十八條 合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其

ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

第二十九條 訴訟ヲ遲延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

第三十條 忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除ク外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時

抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 判事忌避セララルヘキ理由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三十五條 本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除ク外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

第三章 訴訟能力

第三十六條 被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テ

ハ各自之ヲ代表ス

第三十七條 刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用キサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

第三十八條 前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ

特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

第四十條 辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

第四十一條 辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第四十二條 辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四十三條 第三百三十四條又ハ第三百三十五條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補ノ中ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ
被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十四條 辯護人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得
豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

第四十五條 被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人ト勿留ヲ受ケタル被告人トノ接見及信書ノ往復ヲ禁スルコトヲ得ス

第四十六條 辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限り獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫或被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラントスル者ハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十一條 裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ
判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第五十二條 檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條 被告人其ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六節 書類
第五十四條 訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

第五十五條 訴訟ニ關スル書類ハ公判開廷前ニ於テハ之ヲ公ニスルコトヲ得ス

第五十六條 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

一 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

刑事訴訟法 總則 書類

届出ツヘシ
輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五章 裁判

第四十八條 判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得
決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四十九條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ
上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ理由

二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ理由
調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

第五十七條 檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ
押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り之ヲ調書ニ添附スヘシ

第五十八條 前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第五十九條 裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第六十條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書

七

- ヲ作ルヘシ
 公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ
- 一 公判ヲ爲シタル裁判所及年月日
 - 二 判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名
 - 三 被告人出頭セザリシトキハ其ノ旨
 - 四 公判ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由
 - 五 被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ旨
 - 六 辯論ノ要旨
 - 七 第五十六條第二項ニ掲ケル事項
 - 八 期讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類
 - 九 被告人ニ示シタル書類及證據物
 - 十 公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收
 - 十一 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
 - 十二 被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト
 - 十三 判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト
 - 第六十一條 公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

- 供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ増減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ
- 第六十二條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ
 - 第六十三條 公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ
 - 裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
 - 區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
 - 裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
 - 第六十四條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得
 - 第六十五條 辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得
 - 第六十六條 裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラズシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得
 - 第六十七條 裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ
 - 第六十八條 裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印ス

- ヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
- 第六十九條 裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齢、職業及住居ヲ記載スヘシ
 - 裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ
 - 判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢與ノ官氏名ヲ記載スヘシ
 - 第七十條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ
 - 第七十一條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ
 - 第七十二條 官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ
 - 第七十三條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ
 - 第七十四條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ

- 場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ捺印スヘシ
- 第七十五條 被告人、私訴當事者、代理人、辯護人又ハ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ裁判所ニ届出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ
 - 前項ノ規定ニ依ル届出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス
 - 前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス
 - 送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト看做ス
 - 第七十六條 住居、事務所又ハ送達受取人ヲ届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ爲スコトヲ得
 - 前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 - 第七十七條 檢事ニ對スル送達ハ書類ヲ檢事局ニ送付シ

第七十八條 被告人ノ住居、事務所及現在地知レサルトキハ、公示送達ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 公示送達ハ裁判所ノ命シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第八十條 書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クテ、外民事訴訟法ヲ準用ス

第八十一條 期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス

第八十二條 期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス

第八十三條 裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ、被告人ヲ召喚スルコトヲ得

第八十四條 被告人ノ召喚ハ、召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八章 期間

第八十二條 期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス

第八十三條 裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ、被告人ヲ召喚スルコトヲ得

第八十四條 被告人ノ召喚ハ、召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八十五條 召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

第八十六條 被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ、之ヲ勾引スルコトヲ得

第八十七條 左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

第八十八條 被告人ノ勾引ハ、勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條 勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシ

第九十條 第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

第九十一條 被告人ノ勾留ハ、第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第九十三條 裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ノ規定ニ處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條 裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審判事若ハ區裁判所判事、法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢察官又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第九十五條 被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢察長ニ被告人ノ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ記載シタル書面ヲ送付シ其ノ捜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢察長ハ其ノ管内ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ捜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第九十六條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リテ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第九十七條 召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事之ニ記名捺印スヘシ
勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名

交付スルコトヲ得
第二百二條 司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第二百三條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引致スヘシ
第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ之ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第二百四條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二百五條 軍用ノ應舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ應舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍用ノ應舎又ハ艦船ノ外ニ在リテハ現ニ勤務ニ從事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第六條 裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナ

分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ
召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ
裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十八條 前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及囑託ニ因リテ發スル旨ヲ記載スヘシ

第九十九條 召喚狀ハ之ヲ送達ス

第一百條 勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス

檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

第一百一條 勾引狀ハ數通ヲ作り之ヲ司法警察官吏數人ニ

クシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一百七條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第一百八條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第一百九條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ヲ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢事其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第一百十條 檢事ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第一百十一條 勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ヲ授受ヲ爲スコトヲ得

勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第一百十二條 裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖シ或

ルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閲シ、其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

裁判所檢閲ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢事之ヲ爲スコトヲ得

第百十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

第百十四條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第百十五條 勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ノ屬スル家ノ戶主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百十六條 保釋ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第百十七條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ

檢事ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得

第百二十條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢事ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第百二十一條 上訴提起期間内又ハ上訴中ノ事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テ訴訟記録原裁判所ニ在ルトキハ原裁判所其ノ決定ヲ爲スヘシ

第百二十二條 豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第百二十三條 左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

一 被疑者定リタル住居ヲ有セサルトキ

二 現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ

三 現行犯ノ取調ニ因リ其事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ

四 既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ

五 死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ

六 被疑者常習トシテ強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資産ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百十八條 裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ親族其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應ジ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第百十九條 被告人逃亡シタルトキ、逃亡スル虞アルトキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ又ハ住居ノ制限ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコトヲ得

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃亡シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第百二十四條 檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一 檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ヲ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ら之ヲ逮捕スルコトヲ得

二 司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察吏ニ命スヘシ

三 司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ

第百二十五條 現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

第百二十六條 司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取りタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取りタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百二十七條 司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取り又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取りタルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直

持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ
關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳
ノ承諾アルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該
監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除ク外承諾ヲ
拒ムコトヲ得ス
國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副
議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、
海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職
ニ在リタル者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立
ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコ
トヲ得ス
第四百九條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、
辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教者ハ禮祀ノ職
ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受
ケタル爲保管又ハ所持スル物ニシテ他人ノ秘密ニ關ス
ルモノニ付差押ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルト
キハ此ノ限ニ在ラス
第五百十條 裁判所ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場
所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ司法警察官
ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得
命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判
長之ニ記名捺印スヘシ
命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘ

第四百八條 司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收
又ハ搜索ヲ爲スニ當リ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ
發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得
第五百十二條 司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ
搜索ヲ爲シタルトキハ檢事ヲ經由シテ之ニ關スル書類
及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ
第五百十三條 裁判所押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯
罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之
ヲ押收シテ檢事ニ送付スルコトヲ得
檢事前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナ
シト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ
第五百十四條 押收又ハ搜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ
又ハ之ヲ爲スヘキ地ノ豫密判事、區裁判所判事若ハ法
令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコ
トヲ得
受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セザルトキハ受託ノ權
限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得
受命判事又ハ受託判事ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付テハ裁
判所ノ爲ス押收又ハ搜索ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第
百四十二條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ
第五百十五條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ看守者又

ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索
ヲ爲スルコトヲ得又ハ人ヲ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船
ニ入ルコトヲ得ス
猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限ニ
依ルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ圖書ニ
記載スヘシ
日没前押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日没後ト雖其
ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得
第五百十六條 左ノ場所ニ於テ爲ス押收又ハ搜索ニ付テ
ハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス
一 賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルル
モノト認ムヘキ場所
二 旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコト
能ハキ場所但シ公開シタル時間内ニ限ル
第五百十七條 公務所又ハ軍事用ノ廳舍若ハ艦船ノ内ニ
於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘ
キ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ
前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除ク外外人ノ住居又ハ入ノ看
守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ内ニ於テ押收又ハ搜索
ヲ爲ストキハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲ
シテ之ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムル
コト能ハサルトキハ隣人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハ

第五百十八條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索
ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限
ニ在ラス
押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ
之ニ立會ハシムルコトヲ得
第五百十九條 押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫
メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者
ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラ
ズ
第六十條 押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ司
法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得
第六十一條 押收又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラズ許
可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコト
ヲ得
前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分終
ル迄之ヲ留置スルコトヲ得
第六十二條 押收又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於
テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置ク
ヘシ
第六十三條 押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持
者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキ
ハ品目ヲ記載シタル圖書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交
付スヘシ

第六十四條 押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ
運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得
危險ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得
第六十五條 沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得
第六十六條 押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タズ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ
押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得
第六十七條 押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待タズ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ
前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス
第六十八條 押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第六十九條 豫審判事ハ押收及搜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス
第七十條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取りタル場合ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得
司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得
司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ**第六十四條**第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ
第七十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得
七十二條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得檢事又ハ司法警察官現行犯人ヲ逮捕スル爲メ搜索ヲ爲スコトヲ得檢事又ハ司法警察官現行犯人ヲ逮捕スル爲メ追行シタル場合ニ於テ

犯人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ク艦船ノ内ニ逃入りタルトキ亦同シ
第七十三條 司法警察官吏勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入り搜索ヲ爲スコトヲ得
第七十四條 第四百四條乃至第四百九條、第五百三條、第五百五條乃至第五百七條及第六十一條乃至第六十七條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付之ヲ準用ス
第七十六條 第四百四十七條、第五百五十五條乃至第五百七十七條及第六十一條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付之ヲ準用ス
第七十二條 搜索ヲ爲ス場合及第二百二十三條第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル爲メ前條ノ搜索ヲ爲ス場合ニ於テハ第五百五十七條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス
第十二章 檢證
第七十五條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ
第七十六條 檢證ニ付テハ身體ノ檢査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコト

ヲ得
被告人ニ非サル者ノ身體ノ檢査ハ一定ノ證據ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
婦女ノ身體ヲ檢査スル場合ニ於テハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ
死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ
第七十七條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
日没前檢證ニ著手シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得
第七十八條 第四百四十七條、第五百五十四條、第五百五十七條乃至第六十二條及第六十八條ノ規定ハ檢證ニ付之ヲ準用ス
第七十九條 豫審判事ハ檢證ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス
第八十條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯

人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條

人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り檢證ヲ爲スコトヲ得

第八十二條

變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スコトヲ得

第八十三條

前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

第八十四條

檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三章 證人訊問

第八十四條

裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條

證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴訟ヲ受タル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第八十九條

證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

第九十條

召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セサルニ因リ生ジタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十一條

召喚ニ應ゼサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

刑事訴訟法 總則 證人訊問

何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十五條

公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官應ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十六條

左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一

被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二

被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三

被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

第八十七條

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アルモノト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第八十二條

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付テ之ヲ準用ス

第九十三條

第八十八條、第九十條、第九十一條ノ規定ハ證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住所、被告人ノ氏名並被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

第九十四條

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所並出頭セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第九十五條

證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十六條

證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ取調フヘシ

第九十七條

宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十八條 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又
 何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊
 問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何
 事ヲモ默秘セス又ハ何事ヲモ附加セザリシコトヲ誓フ
 旨ヲ記載スヘシ
 裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名
 捺印セシムヘシ

第九十九條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證
 ノ罰ヲ告クヘシ

第一百條 證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

第一百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ
 爲サシムヘシテ之ヲ訊問スヘシ

一 十六歳未満ノ者

二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者

三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係ア
 ル者又ハ其ノ嫌疑アル者

四 第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ
 證言ヲ拒マサルモノ

五 第八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

六 被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑
 湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虚偽ノ鑑定、通譯ノ罪及贓物ニ

關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス
 第一項ニ掲ケタル者宜誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ
 證言タルノ效力ヲ妨ケラレコトナシ

第一百二條 證人ノ供述證人若ハ之ト第八十六條第一
 項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財産上
 ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシム
 スヘシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第一百三條 證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ
 後ニ訊問スヘキ證人在廷スルトキハ退廷ヲ命スヘシ

第一百四條 事實發見ノ爲ニ必要アルトキハ證人ト他ノ證
 人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第一百五條 證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲
 サシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ
 其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第一百六條 證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シ
 タル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ
 妨ケラレコトナシ

第一百七條 第八十五條、第三十六條及第三十八條
 ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第一百八條 證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之
 ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百十三條 豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ
 裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十四條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行
 犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要
 スルトキハ公訴提起前ニ限り第八十四條乃至第二百
 一十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他
 十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他
 檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限り第
 百八十四條乃至第二百一十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問
 シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託ス
 ルコトヲ得

第二百五條 檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合
 ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十六條 司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ
 司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十七條 第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ過料ニ
 處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキトキハ證人ノ現在地ヲ管
 轄スル區裁判所ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第二百十八條 證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコ
 トヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタ
 ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二百十九條 鑑定人ハ該當ニ付鑑定ニ關シ
 第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ
 賠償ヲ命スヘキトキハ鑑定人ノ現在地ヲ管轄スル區
 裁判所ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第二百十九條 裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スル

第二百十條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ
 現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滞在スルトキハ
 其ノ滞在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第二百十條 證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒
 ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ
 過料ニ處スルコトヲ得

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百十一條 裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定
 ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由
 ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ
 得

第二百十二條 裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ
 部員ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ又ハ證人ノ現在地ノ豫審判
 事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有ス
 ル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得
 受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セザルトキハ受託ノ權
 限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ
 裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第九十條及
 第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシム
 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓
 フ旨ヲ記載スヘシ
 第二百二十一條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定
 書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ
 鑑定人數大アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコト
 ヲ得
 鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ
 以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得
 第二百二十二條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人
 前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付ス
 ルコトヲ得
 被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付
 必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當
 ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得
 第二百二十三條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テ
 ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ検査シ、死體ヲ解剖シ又
 ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得
 第二百七十六條 第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ

之ヲ準用ス
 第二百二十四條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テ
 ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閲覧シ若ハ謄寫
 シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得
 鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許
 可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得
 第二百二十五條 裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル
 處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項
 ニ規定スル處分ハ此ノ限ニ在ラス
 第二百二十六條 裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストスルトキ
 ハ鑑定人ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命ジテ鑑定ヲ爲サ
 シムルコトヲ得
 第二百二十七條 檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ
 得
 第二百五十九條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二百二十八條 第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ
 除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ
 第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得
 第二百二十九條 鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定
 料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得
 第二百三十條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スル
 コトヲ得

第二百二十一條 乃至第二百二十三條及第二百二十八條
 ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百二十一條
 第三項ノ規定ニ依リ鑑定書ノ説明ハ官署又ハ公署ノ指
 定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ
 第二百三十一條 特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實
 ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ
 規定ニ依ラス第十三章ノ規定ヲ適用ス
 第十五章 通譯
 第二百三十二條 國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシ
 ムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ
 第二百三十三條 聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル
 場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得
 第二百三十四條 國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯
 セシムルコトヲ得
 第二百三十五條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託ス
 ルコトヲ得
 第二百三十六條 第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ
 準用ス
 第十六章 訴訟費用
 第二百三十七條 刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシ
 テ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ
 被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ
 言渡ヲ爲ササル場合ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシム

ルコトヲ得
 第二百三十八條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シ
 テ之ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第二百三十九條 告訴又ハ告發ニ因リ公訴ヲ提起アリタ
 ル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合
 ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アル
 上キハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ
 得
 第二百四十條 親告罪ニ付告訴ヲ取消アリタル場合ニ於
 テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第二百四十一條 檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シタル
 場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セ
 シムルコトヲ得
 檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ
 其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ
 得
 第二百四十二條 裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於
 テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ
 以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁
 判ニ付上訴アリタルトキハ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ
 得
 第二百四十三條 裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於
 テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルト

キハ職權ヲ以テ別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十四條 裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ最終ニ事件ノ繁屬タル裁判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十五條 訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ

第二編 第一章 第一審

第二百四十六條 檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ搜查スヘシ

第二百四十七條 警視總監、地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スルニ付地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條 左ニ掲クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スヘシ

一、廳府縣ノ警察官

二、憲兵ノ將校、准士官及下士

第二百四十九條 左ニ掲クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏トシテ搜查ノ補助ヲ爲スヘシ

一、警巡查

第二百五十條 前三條ニ規定スル者ノ外勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

第二百五十一條 森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百五十二條 第十一條第一項ノ規定ハ檢事及司法警察官吏ノ爲メニ適用ス

第二百五十三條 搜查ニ付テハ秘密ヲ保持被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百五十四條 搜查ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル場合ニ非サレハ之ヲ得但シ強制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十五條 檢事搜查ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ヲ提起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第二百五十六條 判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百五十七條 第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日内ニ公訴ヲ提起セサルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十五條 規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二百五十八條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百五十九條 祖父母又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十條 被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二百六十一條 被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シ

テ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條 死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サスシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得

第二百六十三條 親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ニ付場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二百六十四條 刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解除消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得

消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十五條 親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知りタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

第二百六十六條 告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ボサス

第二百六十七條 告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消ス

コトヲ得
告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得
前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ
請求ニ之ヲ準用ス
第二百六十八條 親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シ
テ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ
效力ヲ生ス
前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請
求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス
刑法第八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴
又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力
ヲ生ス
第二百六十九條 何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告
發ヲ爲スコトヲ得
官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料ス
ルトキハ告發ヲ爲スヘシ
第二百七十條 第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ準
用ス
第二百七十一條 告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ
得得告訴ノ取消ニ付亦同シ
第二百七十二條 告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢
事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

第二百七十三條 檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告
發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ
第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付
之ヲ準用ス
第二百七十四條 司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルト
キハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事
ニ送付スヘシ
第二百七十五條 第二百七十二條、第二百七十三條及前
條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス
第二百七十六條 第二百七十二條、第二百七十三條及第
二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス
第二百七十七條 犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風説アル場
合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ虛實ヲ探查スヘシ
第二章 公訴
第二百七十八條 公訴ハ檢事之ヲ行フ
第二百七十九條 犯人ノ性格、年齢及境遇並犯罪ノ情狀
及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセサルトキハ公訴
ヲ提起セサルコトヲ得
第二百八十條 公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者
ニ其ノ效力ヲ及ボサス
第二百八十一條 時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完
一成ス
一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
三 長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七
年
四 長期十年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五
年
五 長期五年未満ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ
付テハ三年
六 刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ六月
七 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月
第二百八十二條 二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主
刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前
條ノ規定ヲ適用ス
第二百八十三條 刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場
合ニ於テハ加重又ハ減輕セサル刑ニ從ヒ第二百八十一
條ノ規定ヲ適用ス
第二百八十四條 時効ハ犯罪行為ノ終リタル時ヨリ進行
ス
共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行為ノ終リタル時ヨリ總テ
之ノ共犯ニ對シテ時効ノ期間ヲ起算ス
第二百八十五條 時効ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處
分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處
分ニ因リ申斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無効
ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因リ時効ノ中断ハ
他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス
第二百八十六條 時効ハ中断ノ事由ノ終了シタル時ヨリ
更ニ進行ス由テ告發ノ時ヨリ起算ス
第二百八十七條 時効ハ第三百五條第十項第二號ノ規定
ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十二條ノ規定ニ
依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ニ進行セス
第二百八十八條 公訴ヲ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スル
ニ依リテ之ヲ爲ス
第二百八十九條 拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰金
以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合ニ限
リ豫審ヲ請求スルトコトヲ得
第二百九十條 公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
豫審ヲ請求ハ迅速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ
以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ヲ請求
ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書
記ト共ニ署名捺印スヘシ
公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ
豫審ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
第二百九十一條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯
罪事實及罪名ヲ示スヘシ
被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容
貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

第二百九十二條 公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得
 公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第二百九十三條 檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ被疑者ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ
 第二百九十四條 告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢事若ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ
 第三章 豫審
 第二百九十五條 豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス
 豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ
 第二百九十六條 豫審ニ於テハ取調ノ秘密ヲ保持被告入其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ
 第二百九十七條 豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タズ豫審ニ屬スル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

キハ檢事ノ請求ヲ待タズ豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得
 豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ
 第二百九十八條 檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ
 豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ爲スヘシ
 第二百九十九條 豫審判事ハ豫審處分ニ付其ノ裁判所ニ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得
 第三百條 豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ
 豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得
 第三百一條 豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル理由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ヲクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第三百二條 豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
 第三百八條 檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ヲ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ
 第三百九條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄遠ノ言渡ヲ爲スヘシ
 第三百十條 豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄遠ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス
 第三百十一條 豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄遠ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス
 第三百十二條 公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ
 前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ
 第三百十三條 被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ
 第三百十四條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ
 一 確定判決ヲ經タルトキ
 二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得
 第二百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三百三條 檢事ハ被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得
 檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨グサル限リ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得
 辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得
 第三百四條 豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ヲ報告ヲ求ムルコトヲ得
 第三百五條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得
 一 被告人ノ所在分明ナラサルトキ
 二 被告人ノ心神喪失ノ状態ニ在ルトキ
 前項ノ決定ハ之ヲ送達セス
 第三百六條 豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ
 第三百七條 檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得
 豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ請求ニ應セザ

ルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
 第三百八條 檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ヲ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ
 第三百九條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄遠ノ言渡ヲ爲スヘシ
 第三百十條 豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄遠ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス
 第三百十一條 豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄遠ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス
 第三百十二條 公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ
 前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ
 第三百十三條 被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ
 第三百十四條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ
 一 確定判決ヲ經タルトキ
 二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三 大赦アリタルトキ
 四 時効完成シタルトキ
 五 法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ
 第三百十五條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ
 一 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ
 二 第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ
 三 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ
 四 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ
 五 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ
 六 公訴ノ取消アリタルトキ
 七 被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ
 八 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラスアルトキ
 九 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無効ナルトキ
 第三百十六條 第三百九條及第三百十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十七條 免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限り同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得
 一 新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ
 二 決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル捜査ニ關與シタル檢察又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起シタル基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢察ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事其ノ事實ヲ知ラザリシトキニ限ル
 第三百十八條 免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス
 公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得
 勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢察ニ事件ヲ送致セザルトキハ檢察ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢察五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ
 第三百十九條 免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解ケ言渡アリタル

ルモノトス但シ必要アル場合ニ於テハ押收ヲ存續スルコトヲ得
 押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢察ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢察ハ其ノ押收ヲ解ケヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢察五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ
 第四章 公判
 第一節 公判準備
 第三百二十條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
 公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ
 第三百二十四條 第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
 第三百二十一條 第一回ノ公判期日下被告人ニ對スル召喚狀ノ送致トハ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存ス
 第三百二十二條 裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得
 公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス
 第三百二十三條 裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取

調準備ノ爲公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 檢察及辯護人ハ前預ノ訊問ニ立會フコトヲ得
 訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢察及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第三百二十四條 裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命ジ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ
 第三百二十五條 證據物又ハ證據書類ヲ提出スルコトヲ得
 第三百二十六條 裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得
 第三百二十三條 第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三百二十七條 裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲

第三百二十八條 裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三百三十條 被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外開廷スルコトヲ得ス

第三百三十一條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第三百三十二條 被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受ケルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百三十三條 被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得

第三百三十四條 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ヲ付シテ開廷スルコトヲ得但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中之ヲ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ

第三百四十條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三百四十一條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

第三百四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ

第三百四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル

第三百四十四條 證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告ケヘシ

第三百三十五條 左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得

第三百三十六條 事實ヲ認定ハ證據ニ依ル

第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百三十八條 被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

第三百三十九條 裁判長ハ證人其ノ他ノ者被告人又ハ或

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

第三百四十條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十一條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十二條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十三條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十四條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十五條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十六條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十七條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十八條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百四十八條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ヲ申立テ爲スコトヲ得

第三百四十九條 證據調終リタル後檢事ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得
被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三百五十條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百五十一條 裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ

受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス
檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得
受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百五十二條 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告

人ノ出頭ヲ待タス直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得
被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百五十八條 被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除ク外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十九條 被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由又ハ刑ノ加重減免ノ理由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判決ヲ示スヘシ

第三百六十一條 區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日内ニ判決書ノ謄本ヲ請求ナキ場合ニ於テ判決主文並罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

第三百六十二條 被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十三條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 確定判決ヲ經タルトキ

刑事訴訟法 第一審 公判

判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

第三百五十四條 開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百五十五條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十六條 地方裁判所ハ其ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七條 裁判所ハ被告人ノ申立ニ因リニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

管轄違ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス
管轄違ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三 大赦アリタルトキ

第三百六十四條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二 第三百三十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ

四 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五 被告訴及ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

第三百六十五條 左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一 公訴ノ取消アリタルトキ

二 被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

三 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラザルナルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百六十六條 被告人陳述ヲ肯セズ、許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ヲ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得
第三百六十七條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セザルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除ク外被告人陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得
第三百六十八條 辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宜告ニ依リ判決ヲ告知ス
第三百六十九條 有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シテ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知ス
第三百七十條 裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シテ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得
第三百七十一條 無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留モラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス
第三百七十二條 公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ニ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ
第三百七十二條 押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解テ言渡アリタルモノトス
第三百七十三條 公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得
第三百七十四條 押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解テ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ
第三百七十五條 押收シタル物ニシテ被害者ニ還付スルニキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ
第三百七十六條 贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依リ
第三百七十七條 假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡又ハ其ノ物トス
第三百七十八條 前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス
第三百七十九條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合

ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲ス
第三百七十五條 前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百七十六條 前項ノ請求アリタルトキハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百七十七條 前項ノ請求アリタルトキハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百七十八條 前項ノ請求アリタルトキハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百七十九條 前項ノ請求アリタルトキハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

思ニ反スルコトヲ得ス
第三百八十條 上訴ハ裁判所ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判所ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス
第三百八十一條 上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス
第三百八十二條 檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告大ニ第三百七十八條ニ規定スル者ハ同意ヲ得ルニ非サルニ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス
第三百八十三條 第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得
第三百八十四條 上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ
第三百八十五條 上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ訴訟記録ヲ正誤裁判所又ハ上訴裁判所檢事ニ送付スル前上訴ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得
第三百八十六條 上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其

ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
第三百八十七條 第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカヲサレ事由ニ因リ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第三百八十八條 上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ヲ提起期間ニ相當スル期間内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 上訴權回復ノ理由タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ
 上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ
第三百八十九條 原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三百九十條 上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ヲ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ決定ヲ爲スコトキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得
第三百九十一條 監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上訴ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又

ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス
 被告人自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ代書シタルモノト看做ス
 監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ
第三百九十二條 前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第三百九十三條 上訴ノ上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スルコトヲ得
第二章 控訴
第三百九十四條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
第三百九十五條 控訴ノ提起期間ハ七日トス
第三百九十六條 控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシ
第三百九十七條 控訴ノ申立書上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外第一審裁判所ハ訴訟記録及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ
 控訴裁判所ノ檢事ハ訴訟記録及證據物ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ
 被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢事ハ被告人ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移スヘシ
第三百九十九條 控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得
第四百條 控訴ノ申立書上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ
第四百一條 控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除ケノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ
 第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ
第四百二條 第一審裁判所不法ニ管轄違テ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差出スコトヲ得
第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得

第四百四條 被告人出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定ムヘシ被告ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セザルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得
第四百五條 控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得
第四百六條 第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一審裁判所公訴ヲ棄却セザリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第四百七條 第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス
第四百八條 上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
第四百九條 上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス
 一 法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザルシトキ
 二 職務ノ執行ヨリ除外セラルヘキ判事審判ニ關與シタルトキ
 三 判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ申

立理由アリト認めラレタルニ拘ラス審判ニ關與シタルトキ

四 審理ニ關與セザリシ判事判決ニ關與シタルトキ

五 不法ニ管轄又ハ管轄違テ認めタルトキ

六 不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

七 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ

八 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人出頭スルコトヲシテ審判ヲ爲シタルトキ

九 公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

十 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトヲシテ審理ヲ爲シタルトキ

十一 不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ

十二 檢察ノ爲メ被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十三 法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲サザリシトキ

十四 公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲サザリシトキ

十五 公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲サザリシトキ

十六 法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セザリシトキ

十七 被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘザリシトキ

十八 審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十九 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

二十 判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルトキ

二十一 判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ボササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十二條 刑ノ量定甚シク不當ナリト恩料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十三條 再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十四條 重大ナル事實ヲ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十五條 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大減刑ヲタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十六條 左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一 判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セズ又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大減刑ヲタルコトヲ理由トスルトキ

第四百十七條 第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條 上告ノ提起期間ハ五日トス

第四百十九條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記録ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第四百二十二條 上告申立人期間内ニ上告書及檢事ノ提出

第四百二十二條 上告裁判所ハ遅クモ最初ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

第四百二十三條 上告申立人ハ遅クモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十四條 上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十五條 上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

第四百二十六條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十七條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十八條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十九條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十一條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十二條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十三條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十四條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十六條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十七條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十八條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十九條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十一條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十三條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十四條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十五條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十六條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十七條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十八條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十九條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百五十條 上告申立人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十七條 上告申立人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百二十八條 上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

第四百二十九條 裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閲シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百三十條 上告審ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス

第四百三十一條 上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百四十四條第一項ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百三十二條 公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ明讀スヘシ

第四百三十六條 第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十三條 辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ガキ下キハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十四條 上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

第四百三十五條 上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續並第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

第四百三十六條 上告裁判所ハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘシ

第四百三十七條 第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反及第四百十五條ニ規定スル事由ニ付調査ヲ爲スヘシ

第四百三十八條 不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十九條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ボササル法令ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第四百十三條又ハ第四百十四條ニ規定スル事由ニ因リ檢事ノ上告ナキトキハ他ノ事項ヲ調査セシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスヘキ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十一條 前三條ノ場合ヲ除クノ外上告裁判所ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタル後第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲ調査スヘシ

第四百四十二條 上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲキコト明白ナリト認ムルトキハ其ノ點ニ付辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百四十三條 上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲ認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十四條 上告裁判所事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘシ

第四百四十五條 上告申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百四十六條 上告理由ヲキコトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十七條 上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判決

ヲ破毀スヘシニ依リ前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五十條ノ場合ヲ除ク外
 第四百四十九條 不法ニ管轄違フ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘシ但シ必要アルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得ヘシ
 第四百五十條 不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ
 第四百五十一條 被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由トシタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ
 第四百五十二條 被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲ニ土告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス
 第四百五十三條 判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ
 第四百五十四條 原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲サザレバ上告ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ
 第四百五十五條 第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規

定スル場合ヲ除ク外上告ノ審判ニ付之ヲ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テ本編第三章ノ規定ヲ準用ス
 第四章 抗告
 第四百五十六條 抗告ハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第四百五十七條 裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ對シテハ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除ク外抗告ヲ爲スコトヲ得ス
 前項ノ規定ハ勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル決定及鑑定ノ爲ニスル被告人ノ留置ニ關スル決定ニ付之ヲ適用セス
 第四百五十八條 抗告ハ即時抗告ヲ除ク外何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第四百五十九條 即時抗告ノ提起期間ハ三日トス
 第四百六十條 抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ
 原裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ全部又ハ一部ヲ理由ナシトスルトキハ申立書

ヲ受取リタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ
 第四百六十一條 抗告ハ即時抗告ヲ除ク外裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ執行ヲ停止スルコトヲ得
 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
 第四百六十二條 即時抗告ノ提起期間内及其ノ申立アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス
 第四百六十三條 原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記録及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ
 抗告裁判所ハ訴訟記録及證據物ノ送付ヲ求ムルコトヲ得
 第四百六十四條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ
 第四百六十五條 抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス
 受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ
 第四百六十六條 抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ナキトキハ抗告ヲ棄却スヘシ

抗告理由アルトキハ原決定ヲ取消シ必要アル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲スヘシ
 第四百六十七條 抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知スヘシ
 第四百六十八條 第四百六十條、第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付之ヲ準用ス
 第四百六十九條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ左ニ掲ケル抗告ニ付テハ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 一、公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告
 二、控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テハ決定ニ對スル抗告
 三、再審ノ請求ニ付テハ決定ニ對スル抗告
 四、刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告
 五、裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テハ決定ニ對スル抗告
 六、證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタタル決定ニ對スル抗告
 第四百七十條 裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ掲ケル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ヲ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

一 忌避ノ申立ヲ却下スル裁判
 二 勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル裁判
 三 鑑定ノ爲被告ノ留置ヲ命スル裁判
 四 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ過料又ハ費用ノ賠償ヲ命スル裁判
 區裁判所前項第一號ノ裁判ヲ爲シ又ハ受託判事トシテ前項第二號乃至第四號ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ裁判ヲ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得
 第一項第四號ノ裁判ヲ取消又ハ變更ヲ請求ハ其ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ之ヲ爲スヘシ
 前項ノ請求期間内及其ノ請求アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス
 第四百七十一條 檢事ノ爲シタル勾留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ヲ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得
 司法警察官ノ爲シタル押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ司法警察官ノ職務執行地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ヲ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得
 第四百七十二條 前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百七十三條 第四百六十一條、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百六十六條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十條又ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス
 第四百七十四條 第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四百七十五條 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續
 第四百七十六條 控訴院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受テ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付捜査ヲ爲スヘシ
 第四百七十七條 第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百四十九條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受テ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付捜査ヲ爲スヘシ
 第四百七十八條 檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別權限

ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スヘシ急速ヲ要スル場合ニ於テハ報告前捜査ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
 第四百七十九條 檢事總長捜査ヲ爲シタル後大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求スヘシ
 第四百八十條 檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ト牽連スル他ノ事件ニ付併セテ豫審ヲ請求スルコトヲ得
 第四百八十一條 大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得
 第四百八十二條 大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ意見書ヲ添ヘ書類及證據物ヲ大審院ニ送付スヘシ
 第四百八十三條 大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ
 一 被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定
 二 被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定
 三 被告事件前二條ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ準ジ免訴シ

又ハ公訴ヲ棄却スル決定
 第四百八十四條 第二編ノ規定ハ別段ノ規定ゾル場合ヲ除クノ外大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ之ヲ準用ス
 第五編 再審
 第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得
 一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ
 二 原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虚偽ナリシコト證明セラレタルトキ
 三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル
 四 原判決ノ證據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定判決ニ因リ變更セラレタルトキ
 五 特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無効ノ審決確定シタルトキ又ハ無効ノ判決アリタルトキ

六 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七 原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル捜査ニ關與シタル檢察又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢察ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラザリシトキニ限ル

第四百八十六條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付キ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ

該ル罪ヲ犯シタル者無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ事實ヲ陳述シタルトキ

三 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者刑ノ免除若ハ免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百八十七條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ控訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ控訴棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十八條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百三十五條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル

刑事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審又ハ第二審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十九條 第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキニ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百九十條 再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外原判決ヲ爲シタル裁判所ニ付管轄ス

第四百九十一條 判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ控訴裁判所ニ付管轄ス

判決ノ一部上告審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ七告裁判所ニ付管轄ス

第四百九十二條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ掲クル者之ヲ爲スコトヲ得

一 管轄裁判所ノ檢事

二 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者

三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫

四 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十八條第二號ニ規定スル原由ニ因リ再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢事之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十三條 檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百九十四條 再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受ケタルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコト

第四百九十五條 第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時効期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

第四百九十六條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢察ハ再審ノ請求ニ付テハ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十七條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出ス

第四百九十八條 再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得再審ノ請求ヲ取下ケタル者ハ同一ノ理由ニ因リ更ニ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十九條 第三百八十五條、第三百九十一條及第三百九十三條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百條 第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致ス

第四百九十一條第二項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所上告裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ上告裁判所ニ送致ス

第五百一條 第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止ス

第五百二條 第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止ス

第五百三條 再審ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ再審ノ理由ニ付事實ノ取調ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ其ノ取調ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢察及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲ス

第五百四條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄

却ス

第五百五條 再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス

前項ノ決定アリタルトキハ同一ノ理由ニ因リ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六條 再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲ス

再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第五百七條 第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却ス

第五百八條 第五百二條ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却ス

第五百九條 再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ第四百九十二條第一項第三號ニ掲ケタル者請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ尙有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第五百十條 第五百四條、第五百五條、第五百六條第一項、第五百七條又ハ第五百八條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 裁判所ハ再審開始ノ決定確定シタル事件ニ付テハ第五百條、第五百七條及第五百八條ノ場合ヲ除クノ外其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲ス

第五百十二條 死亡者又ハ回復ヲ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢察及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス

第五百十三條 再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セザルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附ス

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前項ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ状態ニ在リテ回復ヲ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十三條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ辯護人ヲ附スル場合ニ之ヲ準用ス

第五百十三條 第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前項ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セザルモノニ付亦同シ

第五百十四條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スルコトヲ得ス

第五百十五條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ官報及新聞紙ニ掲載シテ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第六編 非常上告

第五百十六條 判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢察總長ハ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出スヘシ

第五百十八條 公判期日ニハ檢察ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第五百十九條 非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百二十條 非常上告ヲ理由アリトスルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スヘシ

一 原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ爲ニ利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ス

二 訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル手續ヲ破毀ス

第五百二十一條 非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ノ規定ニ依リ爲シタルモノヲ除外ノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ボサス

第五百二十二條 第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ準用ス

第七編 略式手續

第五百二十三條 區裁判所ハ檢察ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲ス

裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百二十四條 略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五百二十五條 前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得ス又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ニ認メ上恩料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

第五百二十六條 裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實、適用シタル法令、科トスヘキ刑及附隨ノ處分或謄本ノ送達アリ

タル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヘシ

第五百二十七條 略式命令ヲ爲シタルトキハ檢察ニ裁判書ノ謄本ヲ送達スヘシ

第五百二十八條 略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ正式裁判ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢察ニ通知スヘシ

第五百二十九條 第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第五百三十條 正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第五百三十一條 正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ檢察ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ヲ適法トスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ略式命令ニ拘束セラレルコトナシ

第五百三十二條 正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五百三十三條 略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ其ノ請求ヲ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第八編 裁判ノ執行

第五百三十四條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五百三十五條 裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢察ノ指揮ス但シ其ノ性質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

上訴ノ裁判又ハ上訴ノ取下ニ因リ下級裁判所ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ檢察其ノ執行ヲ指揮ス但シ訴訟記録下級裁判所ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢察ノ指揮ス

第五百三十六條 裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ之ニ裁判書又ハ裁判ノ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除ク外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百三十七條 二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除ク外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢察ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三十八條 死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル
 第五百三十九條 死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ
 檢察官ハ速ニ訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出スヘシ
 第五百四十條 司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日
 内ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ
 第五百四十一條 死刑ノ執行ハ檢察官及裁判所書記ノ立會
 ニテ之ヲ爲スヘシ
 檢察官又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ刑場ニ
 入ルコトヲ得ス
 第五百四十二條 死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁判所書記ハ
 執行始末書ヲ作リ檢察官及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印
 スヘシ
 第五百四十三條 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀
 態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス
 死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ
 命令ニ因リ執行ヲ停止ス
 前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於
 テハ控擲又ハ分娩ノ後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ
 執行ヲ爲スコトヲ得ス
 第五百四十四條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル
 者心神喪失ノ狀態ニアルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁
 判所ノ檢察官又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄
 スル地方裁判所ノ檢察官ノ指擲ニ因リ其ノ控擲ニ至ル迄

執行ヲ停止ス
 第五百四十五條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタ
 ル場合ニ於テハ檢察官ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義
 務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入
 レシムルコトヲ得
 刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ
 監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス
 第五百四十六條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル
 者ニ付左ニ掲ケル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル
 裁判所ノ檢察官又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管
 轄スル地方裁判所ノ檢察官ノ指擲ニ因リ刑ノ執行ヲ停止
 スルコトヲ得
 一、刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スルトキ又ハ生命
 ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
 二、七十歳以上ナルトキ
 三、受胎後百五十日以上ナルトキ
 四、分娩後六十日ヲ經過セザルトキ
 五、刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル
 虞アルトキ
 六、祖父母又ハ父母七十歳以上又ハ癩篤疾ニシテ侍養
 ノ子孫ナキトキ
 七、其ノ他重大ナル事由アルトキ
 第五百四十七條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受

ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢察官ハ執行ノ爲之ヲ召
 喚スヘシ召喚ニ應ゼサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ
 第五百四十八條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受
 ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキハ檢
 察官ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セ
 シムルコトヲ得
 第五百四十九條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受
 ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢察
 官ハ檢察官二人相書ヲ送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ
 得
 請求ヲ受ケタル檢察官ハ其ノ管内ノ檢察官ヲシテ逮捕狀
 ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ
 第五百五十條 逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏
 名、住居、年齢、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事
 項ヲ記載シ檢察官又ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ
 必要アル場合ニ於テハ逮捕狀二人相書ヲ添付スヘシ
 第五百五十一條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス
 第五百五十二條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ
 關スル規定ヲ準用ス
 第五百五十三條 罰金、料料、沒收、追徴、過料、沒取
 訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢察官ノ命令ニ因リ之ヲ
 執行ス此ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ
 有ス

前項ノ裁判ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス但シ執
 行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス
 第五百五十四條 沒收又ハ租稅其ノ他ノ公課若ハ專賣ニ
 關スル法令ノ規定ニ依リ言渡シタル罰金若ハ追徴ハ刑
 ノ言渡ヲ受ケタル者ノ判決確定後死亡シタル場合ニ於テ
 ハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得
 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡ニ非サル事由ニ因リ相續
 開始シタルトキハ罰金、沒收又ハ追徴ハ相續財産ニ就
 キ之ヲ執行スルコトヲ得
 第五百五十五條 法人ニ對シ罰金、料料、沒收又ハ追徴
 言渡シタル場合ニ於テ其ノ判決確定後合併ニ因リ法
 人消滅シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因
 リ設立シタル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得
 第五百五十六條 上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例
 ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス
 一、檢察官ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部
 二、檢察官ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ
 勾留日數ノ全部
 前項ノ規定ニ依リ通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ
 一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス
 上管裁判所原判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中
 ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス
 第五百五十七條 沒收物ハ檢察官之ヲ處分スヘシ

第五百五十八條 沒收ノ執行後三月内ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢事ハ破壊又ハ廢棄スヘキ物ヲ除ク外之ヲ交付スヘシ

第五百五十九條 偽造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

第六百六十條 押收物ノ還付ヲ受ケヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第六百六十一條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六百六十二條 裁判ノ執行ヲ受ケル者又ハ其ノ法定代理人保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ

不當ト認メタルキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六百六十四條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテ

第六百六十五條 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲爲シタル勞務留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百六十六條 第五百五十三條第一項ノ執行ノ費用ハ執行ヲ受ケル者ノ負擔トシ民事訴訟法ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第九章 通則

第六百六十七條 犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財産ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコト

ヲ得

第五百六十八條 私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五百六十九條 公訴ニ付第三條、第四條、第六條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第二十三條又ハ第三百五十六條但書以決定アルトキハ私訴ニ付亦同

第五百七十條 私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決ハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十一條 私訴ニ關スル書類ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セズ但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十二條 民事訴訟法中左ニ掲クル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス但シ即時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アルタル日ヨリ三日トス

一 訴訟能力

二 共同訴訟人

三 第三者ノ訴訟參加

四 訴訟代理及輔佐

第五 訴訟費用

六 保證

七 訴訟上ノ救助

八 訴訟手續ノ中斷及中止

九 當事者本人ノ出頭

十 訴訟上ノ和解

十一 請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決

十二 訴又ハ上訴ノ取下

十三 強制執行

第五百七十三條 當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受テ辯護士ニ非サル者ヲ以テ訴訟ノ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百七十四條 辯護人ハ私訴ニ付被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百七十五條 當事者及其ノ訴訟代理人ハ裁判長ノ許可ヲ受テ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且之ヲ謄寫スルコトヲ得

第五百七十六條 私訴ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ民事訴訟法ニ依リ原判決ヲ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘシ

第五百七十七條 私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

第二章 第一審

第五百七十八條 原告が私訴を提起スルニハ民事訴訟法ニ準シ
 訴状ヲ裁判所ニ差出スヘシ
 第五百七十九條 原告ノ他對手人ニ交付スヘキ書類ハ
 裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應ジテ之ヲ差出
 スヘシ
 第五百八十條 裁判所訴状ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ
 被告ニ送達スヘシ
 公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シ公判廷ニ於テ訴状ヲ
 交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス
 第五百八十一條 公訴ノ公判期日ニハ私訴關係人ヲ召喚
 スヘシ
 第五百八十二條 原告公判期日ニ出頭シ訴状ヲ差出スコ
 提能シテ申由ヲ説明シタルトキハ口頭ヲ以テ私訴ヲ
 提起スルコトヲ得但シ被告出頭セサル場合ニ於テハ此
 ノ限ニ在ラズ
 第五百八十三條 原告ノ取調ヲ公訴ノ審理ヲ終ヘタル後
 之ヲ爲スヘシ但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以
 テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得
 第五百八十四條 原告ハ請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ判
 決ヲ受クヘキ事項ヲ申立ツヘシ
 被告ハ答辯ヲ爲スヘシ
 第五百八十五條 裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサ
 ル當事者、訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シ決定ヲ以テ其

ノ後陳述ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新期日
 ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムヘキコトヲ命
 ズ
 第五百八十六條 公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取
 調ヘタルモノト看做ス
 第五百八十七條 裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申
 立ニ範圍内ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告
 ノ陳述ニ拘束セラルコトナシ
 第五百八十八條 檢察ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セ
 第五百八十九條 檢察官ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セ
 檢察官ハ私訴ノ審判ニ立會セタル場合ニ於テハ當事者ノ辯
 論終リタル後意見ヲ陳述スルコトヲ得
 第五百九十條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ
 問ハス數多ク日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結
 シ難キモノト認ムルコトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘ
 シ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第五百九十一條 公訴ニ付無罪ノ免訴又ハ公訴棄却ノ判決
 アリタルトキハ判決ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ
 公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私
 訴ヲ却下スヘシ
 前二項ノ規定ニ依リ私訴ヲ却下シタル判決又ハ決定ニ
 對シテハ公訴ニ付上訴アリタルトキニ非サレハ上訴ヲ
 爲スコトヲ得ス

第五百九十一條 略式命令確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス
 決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第五百九十二條 裁判所ハ公訴判決ヲ同時ニ私訴ノ判
 決ヲ爲スヘシ
 第五百九十三條 當事者召喚ヲ受クテ期日ニ出頭セ又
 第六百九十四條 辯論ヲ爲サズ若シ秩序維持ヲ爲退廷ヲ命
 ズルレバ抗告トキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコ
 トヲ得
 第六百九十五條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ヲ申立
 得
 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ
 私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ
 前二項ノ規定ニ依リ上告ヲ取下アリタルトキハ第四百十七
 條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百
 百二十條、第四百二十七條若シ第四百四十五條ノ規定
 第六百九十六條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ヲ申立
 得
 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告アリタルトキ
 第五百九十九條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ヲ申立
 得
 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告アリタルトキ
 私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル上告ハ其ノ效力ヲ失フ
 前二項ノ規定ニ依リ上告ヲ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄

第五百九十六條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ヲ申立
 得
 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告アリタルトキ
 私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ
 前二項ノ規定ニ依リ上告ヲ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄
 却ス
 第五百九十七條 左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第
 一審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得
 一 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタルトキ
 二 法令ノ違反ヲ理由トスルトキ
 第五百九十八條 左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第
 一審ノ判決ニ對シテ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ
 得
 一 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタルトキ
 二 不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ
 第五百九十九條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立
 アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ
 得
 公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ
 私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル上告ハ其ノ效力ヲ失フ
 前二項ノ規定ニ依リ上告ヲ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄

却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス
 第六百六條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ヲ申立テ其
 ルトキハ裁判所ハ私訴ニ付上告ヲ爲シタル當事者ニ其
 ノ旨ヲ通知スヘシ
 止告ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ
 七日内ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此ノ控訴ハ止告ニ付前條
 第三項ノ規定ニ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失
 フ
 第六百一一條 公訴ノ判決ニ對シテ上告アリタル場合ニ於テ
 私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ止告趣意書ヲ差出サザ
 ルコトヲ得
 第六百二條 止告裁判所ニ於ケル辯論ハ辯護士ヨリ選任
 シタル訴訟代理人ニ非サルベシ之ヲ爲スコトヲ得又ハ
 第六百三條 當事者訴訟代理人ヲ選任セサルトキハ又ハ訴
 訟代理人出頭セサルトキハ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲
 スコトヲ得
 第六百四條 第四百四十條又ハ第四百四十三條ノ規定ニ
 依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡アリタル
 事キハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト看做ス
 第六百五條 第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告
 棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲
 スルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却ス
 ルヘシ

第六百六條 第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告
 棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲
 スルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ除ク
 事ニ付判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲
 スヘシ
 第六百七條 前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス
 爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民
 事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民
 事部ニ移送スルコトヲ得
 第六百八條 公訴ニ付原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ
 判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從テ私訴ニ付
 判決ヲ爲スルコトヲ得
 一 公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ボスヘキ變更ヲ爲シタ
 ルトキハ又ハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違
 反アルトキハ原判決ヲ破毀ス
 二 公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ボスヘキ變更ヲ爲サス
 且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキト
 キハ止告ヲ棄却ス
 第六百九條 前條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀ス
 ル場合ニ於テハ第六百十條ノ規定ニ付除外タリ外事件ニ付
 更ニ判決ヲ爲スルコトヲ得
 第六百十條 第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ
 破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スルヘキ私訴ノ

ミニ付事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所
 民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所
 民事部ニ移送スヘシ
 第六百一一條 公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ
 判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同時ニ判決ヲ爲スル
 事ニ付
 第六百十二條 上訴裁判所私訴ノミニニ付審判ヲ爲スヘキ
 場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ
 移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得
 ス
 第六百十三條 本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合
 第六百十四條 本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合
 第六百十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 (大正十二年勅令第二百十五號ヲ以テ大正十三年一月
 一日ヨリ施行ス)
 第六百十五條 明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法
 及刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス
 第六百十六條 本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之
 ヲ適用ス
 前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續
 ノ效力ヲ妨グス
 本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ

之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル
 モノト看做ス
 第六百十七條 本法施行前裁判所構成法第十條第一號
 規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ申請ハ之ヲ管轄移轉
 請求ト看做ス
 第六百十八條 本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ其ノ理由ノ
 疎明ヲ爲サザル者ハ本法施行ノ日ヨリ三日内ニ之ヲ
 爲スヘシ
 第六百十九條 本法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ
 其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル事件ニ付テハ本法施行
 ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス
 第六百二十條 本法施行前始リタル法定期間ニ付訴訟行
 爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所
 在地トノ距離ニ從テ加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依
 リ
 第六百二十一條 本法施行前開席判決ヲ受ケタル者ニ對
 シテハ從前ノ規定ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得
 第六百二十二條 本法施行前保釋ヲ許ササル言渡ニ對シ
 テ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ裁判
 ヲ爲スヘシ
 第六百二十三條 第二百六十五條ノ規定スル期間ハ本法
 施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定
 後ニ於テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本人十八歳ニ達シタル後ト雖二十三歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

一 無期刑ニ付テハ七年

二 有期刑ニ付テハ三年

三 第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ハ二付テハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一

第十一條 少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルコトナクシテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス

第十二條 少年ニシテ第七條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條 少年ノ假出獄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十五條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十六條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十七條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十八條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十九條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス

第二十條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス

第二十一條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十二條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十三條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十四條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十五條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十六條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十七條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十八條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十九條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十一條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十二條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十三條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

用ニ付テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサリシモノト看做ス

少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ終シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ人ノ資格ニ關スル法令ヲ適用シ付テハ其ノ取消サレタル時刑ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第十四條 少年審判所ノ組織

第十五條 少年審判所ノ組織

第十六條 少年審判所ノ組織

第十七條 少年審判所ノ組織

第十八條 少年審判所ノ組織

第十九條 少年審判所ノ組織

第二十條 少年審判所ノ組織

第二十一條 少年審判所ノ組織

第二十二條 少年審判所ノ組織

第二十三條 少年審判所ノ組織

第二十四條 少年審判所ノ組織

第二十五條 少年審判所ノ組織

第二十六條 少年審判所ノ組織

第二十七條 少年審判所ノ組織

第二十八條 少年審判所ノ組織

第二十九條 少年審判所ノ組織

第三十條 少年審判所ノ組織

第三十一條 少年審判所ノ組織

第三十二條 少年審判所ノ組織

第三十三條 少年審判所ノ組織

第二十一條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十二條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十三條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十四條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十五條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十六條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十七條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十八條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十九條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十一條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十二條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十三條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十六條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十七條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十八條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第二十九條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十一條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十二條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

第三十三條 少年審判官ハ刑事ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

ハ之ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得 檢事及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條 少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命ジ調査ノ爲ニ必要ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得 前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述及ハ鑑定ヲ要領ヲ錄取スヘキ事ヲ得

第三十五條 參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本大ヲ同行セシムルコトヲ得

第三十七條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 條件ヲ附シ又ハ附セズシテ保護者ニ預クルコトヲ得

二 寺院 教會 保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコトヲ得

三 病院ニ委託スルコトヲ得

四 少年保護司ノ觀察ニ付スルコトヲ得

五 矯正院ニ委託スルコトヲ得

第六項 第一號乃至第三號ノ處分アリタルキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第三十九條 前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘキ事ヲ得

第四十條 少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモノト認ムルシタルキハ審判期日ヲ定ムヘシ

第四十一條 審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ取消スルコトヲ得

第四十二條 少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要ナルキハ本人ノ爲ニ附添人ヲ附スルコトヲ得

附添人ヲ選任スルコトヲ得

附添人ハ辯護士、保護事業ニ從事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充テシム

第四十三條 審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘキ事ヲ得

少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認ムルキハ保護者ハ之ヲ呼出ササルコトヲ得

第四十四條 少年保護司ハ保護者及附添人ニ審判席ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ

事由ノトキハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第四十五條 審判ハ之ヲ公行セズ但シ少年審判所ハ本人ノ親族ヲ保護事業ニ從事スル者其他相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條 少年審判所審理ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ終結處分ヲ爲スヘシ

第四十七條 刑事訴訟ノ必要アリト認ムルコトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢察官ニ送致スヘシ

裁判所又ハ檢察官ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事ヲ發見シ因リ刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢察官ニ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ

檢事ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第四十八條 訓誡ヲ加フベキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘキ事項ヲ諭告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルベク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條 學校長ノ訓誡ニ委スヘキモノト認メタルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ訓誡ヲ

第五十條 改心ニ警約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本大ヲ以テ警約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルベク保護者ヲ以テ立會ハシメ且警約書ニ連署セシム

第五十一條 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本大ハ保護監督ヲ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受ケヘキ者ニ對シ本人ハ處遇ニ付參考ト爲ルベキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委嘱スヘシ

第五十三條 少年保護司ノ觀察ニ付スルキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ハ保護監督ヲ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ

第五十四條 感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スルベキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本大ハ處遇ニ付參考ト爲ルベキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十五條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス處アル少年ニ對シ前條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ適當ナル親權者、後見人、戶主其他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ベシ

第五十六條 少年審判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作り審

判子經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其必要ト認
 第五十七條 少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第
 五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者
 學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對
 シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得
 第五十八條 少年審判所第五十一條及第五十二條ノ規定
 ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成
 績ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得
 第五十九條 少年審判所第四十八條乃至第五十四條ノ規
 定ニ依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二十
 六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ
 發見シタルトキハ裁判所又ハ檢察官ヨリ送致ヲ受ケタル
 場合ト雖管轄裁判所ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ
 事件ヲ檢察官ニ送致スベシ
 第六十條 禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項
 第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情
 第六十一條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ
 適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルト
 キハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタ
 ル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得
 第六十一條 第三十五條及前條ノ費用並橋正院ニ於テ生

シタル費用ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ
 扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徵收スルコト
 ヲ得
 前項費用ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ
 規定ヲ準用ス
 第六十二條 裁判所ノ刑事手續
 第六十三條 少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ
 扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徵收スルコト
 ヲ得
 前項費用ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ
 規定ヲ準用ス
 第六十四條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條
 ノ調査ヲ爲スベシ
 第六十五條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條
 ノ調査ヲ爲スベシ
 第六十六條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條
 ノ調査ヲ爲スベシ

第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準
 用ス
 第六十七條 勾留狀ハ已ムコトヲ得サル場合ニ非サレハ
 少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ得ス
 拘置監ニ於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外少年ヲ
 獨居セシムヘシ
 第六十八條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接
 觸ヲ避ケシムヘシ
 第六十九條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽
 連スル場合ト雖審理ニ妨ナキ限り其ノ手續ヲ分離スヘ
 シ
 第七十條 裁判所ノ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人
 天退廷セシムルコトヲ得
 第七十一條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ
 因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタ
 ルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ
 檢察官前項ノ決定ニ對シ三日内ニ抗告ヲ爲スコトヲ
 得
 第七十二條 第六十六條ノ處分ハ事件ヲ終局セシムル裁
 判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ
 第七十三條 第四十二條、第四十三條第二項第三項及第
 四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條
 ノ規定ハ豫審又ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七十四條 少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ
 少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタ
 ル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ
 得ス
 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯
 人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行
 者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令
 第四百八十七號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行ス)
 ●假出獄少年取締規則 (大正十一年十二月十八日)
 司法省令第三十二號
 假出獄少年取締規則左ノ通相定ム
 第一條 少年ノ假出獄ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外一
 般ノ例ニ依ル
 第二條 假出獄ノ許可アリタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ少年
 審判所ニ通知スヘシ
 第三條 假出獄少年ヲ釋放スル場合ニ於テハ其ノ觀察ヲ
 爲スヘキ少年保護司又ハ保護ヲ引受ケタル者ニ本人ヲ
 引渡スヘシ

第四條 假出獄少年ハ證據ニ記載セラレタル住居ノ地ニ

到着アリ於テ證據ヲ少年保護司ニ呈示シテ認印ヲ受

取シテシテ其ノ事由ヲ開示スルヘシトシテ其ノ事由

天災疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能

ハザサトキハ其ノ事由ヲ開示スルヘシトシテ其ノ事由

少年保護司前項ノ開示ヲ正當ナリト認メタルトキハ之

ヲ證據ニ記載シテ認印ヲ爲スルヘシトシテ其ノ事由

第五條 少年保護司假出獄少年ニ付少年法第六條第二項

ノ規定ニ依リ保護處分ヲ爲ス必要アリト思料スルトキ

ハ其ノ事由ヲ少年審判所ニ申述スヘシトシテ其ノ事由

第六條 假出獄少年住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ

爲セザルトスルコトキハ其ノ事由ヲ行先地及旅行ノ日數ヲ

明ニシ少年保護司ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 假出獄少年外國ニ旅行ヲ爲サルトスルコトキハ其

ノ事由ヲ行先地及旅行ノ日數ヲ記載シ少年審判所ヲ經由

テ司法大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 假出獄少年旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸著シタルト

キハ速ニ少年保護司ニ届出ツヘシトシテ其ノ事由

第九條 假出獄ノ取消アリタルトキハ其ノ執行ヲ爲シタ

ル刑務所ノ長ハ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スルヘシト

第十條 假出獄少年死亡シタルトキハ少年審判所ハ其ノ

旨ヲ司法大臣ニ申報シ且證據ヲ交付シタル刑務所ニ通

知スヘシ

第十一條 假出獄少年ノ證據ニ記載セラレタル住居ノ地ニ

到着アリ於テ證據ヲ少年保護司ニ呈示シテ認印ヲ受

取シテシテ其ノ事由ヲ開示スルヘシトシテ其ノ事由

天災疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能

ハザサトキハ其ノ事由ヲ開示スルヘシトシテ其ノ事由

少年保護司前項ノ開示ヲ正當ナリト認メタルトキハ之

ヲ證據ニ記載シテ認印ヲ爲スルヘシトシテ其ノ事由

少年審判費用規則 (大正十一年十二月十八日)

少年審判費用規則左ノ通相定ム

第一條 少年審判所ノ命ニ依リ出頭シタル參考人ニハ日

當 旅費及止宿料ヲ支給スルコトヲ得

第二條 日當ハ出頭一度ニ付三圓以内ニ於テ少年審判所

ノ之定ム但シ鑑定ヲ爲シタル參考人ノ日當ハ二圓以上

十圓以内ニ於テ少年審判所ノ之定ム

第三條 鑑定ニ付特別ノ技能若ハ費用又ハ長時間ヲ要シ

タルトキハ日當ノ外別ニ少年審判所ノ相當ト認ムル金

額ヲ支給スルコトヲ得

第四條 旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二

等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ少年審判所ノ相當ト認

ムルコトニ依リ汽船ヲ通セザル水路ニ在リテハ海

里ニ依リ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

里毎ニ其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但シ一

矯正院法

第十條 矯正院法

第六條 前四條ノ規定シタル費用ハ終結處分前ニ請求ス

第七條 少年審判所ノ附シタル附添人ニハ少年審判所相

當ト認ムルトキハ參考人ニ準シテ日當 旅費及止宿料

ヲ給與スルコトヲ得

第九條 矯正院ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲

戒スルコトヲ得

者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノニ對シ少年審判
所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ
得
假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内少年保護司ノ
觀察ニ付ス

第十四條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正
院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコト
ヲ得

第十五條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審
判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得

第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外在院者ノ處遇
ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 前二條ノ規定ハ少年審判所、裁判所又ハ豫審
判事ヨリ假ニ委託シタルモノニ付之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令
第四百八十七號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行ス)

●矯正院處遇規程 (大正十一年十二月十八日)
司法省令第三十四號

矯正院處遇規程左ノ通相定ム

第一章 收容
第一條 少年ノ收容ハ當該官廳ノ送致書、委託書又ハ入
院許可ノ裁判書ニ依ル

第二條 少年ヲ收容シタルトキハ送致又ハ委託ヲ爲シタ
ル官廳ニ通知スヘシ

第三條 入院者ニ付テハ各別ニ少年簿ヲ作り之ニ必要ナ
ル事項ヲ記載スヘシ

第四條 院長ハ入院者ニ對シ遵守事項及心得事項ヲ説示
スヘシ

第五條 入院者ニ付テハ其ノ性行、境遇、經歷、學術技
藝ノ程度、心身ノ狀況等身上ニ關スル事情ヲ精査シ其
結果ニ基キ居室及修習スヘキ學科、實科ノ種類、程
度ヲ定ムヘシ

第六條 在院者ノ處遇ニ關シ必要ナル取調ヲ爲スニ付テ
ハ少年審判所ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第七條 院長ハ中學校及實業學校程度以下ノ學校ニ準シ
課程及教科目ヲ定メ且教科用圖書ヲ選定シ司法大臣ノ
認可ヲ受ケシテ之ヲ用ス

第八條 院長ハ在院者ノ矯正ニ有益ナリト認ムルモノニ
關シ教科外ノ圖書ヲ閱讀セシムルヲ得

第九條 休日ニハ在院者ヲ休養セシメ適當ト認ムル方法

第十條 祖父母又ハ父母病篤キトキハ在院者ヲシテ往訪
スルコトヲ得

第十一條 祖父母又ハ父母死亡シタルトキハ三日間謹慎
ヲシメ適當ト認ムル方法ニ依リ祭祀ヲ行ハシムルコト
ヲ得

第十二條 一月一日、紀元節及天皇節祝日ニハ在院者ヲ
參集セシメ左ノ順序ニ從ヒ式ヲ舉クヘシ

一職員及在院者「君力代」ヲ合唱ス
二職員教育ニ關スル勸語ヲ奉讀シ其ノ義ヲ行フ

一職員及在院者祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス
二職員及在院者祝日ニ相當スル唱歌ヲ授與スルコ
トヲ得

第十三條 院長ハ學科及實科ノ成績證明書ヲ授與スルコ
トヲ得

第十四條 院長ハ在院者ノ成績ニ鑑ミ左ニ掲ケル等級ノ
褒賞ヲ與フルコトヲ得

一 褒狀
二 賞與
三 賞票
院長ハ賞票ニ付更ニ種別ヲ設ケルコトヲ得

第十五條 院長ハ成績特ニ優長ナル在院者ニ對シ左ニ掲
ケル殊遇ヲ與フルコトヲ得

一 特ニ設ケタル居室、器具其ノ他ノ設備ノ使用

一 組長其ノ他名譽トスル地位ヲ授與ス

二 一定時又ハ臨時ノ外出ヲ許ス

三 依リ左ニ掲ケル懲戒ヲ行フコトヲ得

一 一組長其ノ他名譽トスル地位ヲ授與ス

二 一定時又ハ臨時ノ外出ヲ許ス

三 依リ左ニ掲ケル懲戒ヲ行フコトヲ得

一 一組長其ノ他名譽トスル地位ヲ授與ス

二 一定時又ハ臨時ノ外出ヲ許ス

三 依リ左ニ掲ケル懲戒ヲ行フコトヲ得

一 一組長其ノ他名譽トスル地位ヲ授與ス

二 一定時又ハ臨時ノ外出ヲ許ス

三 依リ左ニ掲ケル懲戒ヲ行フコトヲ得

クヘシ
 第二十二條 大祭日、祝日其ノ他院長適當ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス特別ノ食物ヲ給與スルコトヲ得
 第二十三條 自辨品ハ在院者ノ規律、衛生ニ害ナキ限り其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得
 第五章 衛生及診療
 第二十四條 疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外入院者ヲ入浴セシメ健康診斷ヲ行フヘシ
 第二十五條 居室、衣類、寢具等ハ在院者ヲシテ之ヲ整頓セシムヘシ
 第二十六條 在院者ニハ院長ノ定ムル所ニ依リ理髮及入浴ヲ爲サシムヘシ
 第二十七條 春秋二回在院者ノ體格檢査ヲ行ヒ必要アルトキハ臨時健康診斷ヲ行フヘシ
 第二十八條 傳染病發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ豫防ヲ嚴ニシ應急適切ナル處置ヲ爲スヘシ
 第二十九條 傳染病發生シタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ司法大臣ニ申報スヘシ
 第三十條 在院者ニハ疾病豫防ノ爲必要ナル醫術ヲ行フコトヲ得
 第三十一條 在院者重病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ旨委

トヲ得
 第八章 退院及假退院
 第三十八條 院長在院者ノ退院ノ許可ヲ求ムルニハ在院中ニ於ケル行狀及學科實科ノ成績ヲ表示シテ之ヲ爲スヘシ
 第三十九條 在院者ノ假退院ノ許可ヲ求ムルニハ前條ニ定ムル事項ノ外假退院後遵守スヘキ條件及保護ヲ引受クヘキ適當ノ者アルトキハ其ノ氏名住居職業假退院者トノ關係、保護ヲ引受クヘキ適當ノ者ナキトキハ其ノ事由ヲ表示スヘシ
 第四十條 假退院ノ許可アリタルトキハ直ニ假退院ノ日時ヲ定メ保護ヲ引受クヘキ者及住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ニ通知スヘシ
 第四十一條 住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ハ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司ヲ定メテ矯正院ニ通知スヘシ
 第四十二條 院長ハ假退院ヲ許ス者ニ假退院證ヲ授與シ遵守スヘキ條件ニ付說示シ保護ヲ引受クヘキ者又ハ少年保護司ニ引渡スヘシ
 第四十三條 前條ノ引渡ヲ爲シタルトキハ院長ハ之ヲ司法大臣ニ申報シ假退院ヲ許可シタル少年審判所ニ通知スヘシ
 第四十四條 假退院者住居ニ到達シタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル保護者ハ少年保護司ニ届出テ少年保護司ハ

託ヲ爲シタル官廳、親權者、後見人、戶主其ノ他又保護者ニ通知スヘシ
 第三十二條 在院者ハ院長ノ許可ヲ受ケ面會又ハ通信ヲ爲スコトヲ得
 第三十三條 面會ハ應接室ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 第七章 領置
 第三十四條 院長ハ在院者ノ所有品ヲ領置シ適當ト認ムルトキハ之ヲ其ノ親權者若ハ後見人ニ交付シ又ハ本人ヲシテ賣却其ノ他ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得
 領置スヘキ物品ハ本人立會ノ上其ノ種目及員數ヲ點檢シ領置品簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
 第三十五條 在院者所有ノ金錢ハ本人立會ノ上其ノ金額ヲ計算シ本人ノ名ニ於テ郵便貯金ノ手續ヲ爲シ其ノ通帳ハ院長之ヲ保管シ領置金簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
 第三十六條 在院者ニ寄贈ノ申出ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得
 第三十七條 領置ノ物品ハ退院又ハ假退院其ノ他領置ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ還付スヘシ但シ在院中ト雖必要アリト認ムルトキハ之ヲ在院者ニ交付スルコ

矯正院ニ通知スヘシ
 第四十五條 少年審判所少年保護司ノ申出ニ依リ假退院者ノ行狀其ノ他ノ事由ニ因リ指定ノ條件ヲ變更スヘキ必要アリト認ムルトキハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得
 第四十六條 少年審判所假退院者ニ指定シタル條件ヲ變更シタルトキハ之ヲ矯正院ニ通知シ且新ナル條件ヲ文書ニ記載シ少年保護司ヲシテ假退院者ニ交付セシムヘシ
 少年保護司ハ條件ヲ變更シ付必要ナル說示ヲ爲スヘシ
 第四十七條 院長假退院ヲ取消シタルトキハ之ヲ少年保護司ニ通知スヘシ
 少年保護司前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ入院手續ヲ爲シ假退院證及前條ノ文書ヲ返納セシムヘシ
 第四十八條 假退院者逃走又ハ死亡シタルトキハ保護司引受ケタル者ハ直ニ少年保護司ニ届出ツテ其ノ軍人軍屬ト爲リタルトキ亦同シ
 第四十九條 少年保護司假退院者ヲ逃走若ハ死亡シタルコト又ハ軍人軍屬ト爲リタル者ヲ知リタルトキハ速ニ逃走若ハ死亡シタル者ニ通知スヘシ
 第五十條 退院又ハ假退院ヲ爲ス者ニハ事情ニ依リ貸與品全部又ハ一部ヲ給與シ且歸住旅費又ハ相當ノ衣類

トヲ得
 第八章 退院及假退院
 第三十八條 院長在院者ノ退院ノ許可ヲ求ムルニハ在院中ニ於ケル行狀及學科實科ノ成績ヲ表示シテ之ヲ爲スヘシ
 第三十九條 在院者ノ假退院ノ許可ヲ求ムルニハ前條ニ定ムル事項ノ外假退院後遵守スヘキ條件及保護ヲ引受クヘキ適當ノ者アルトキハ其ノ氏名住居職業假退院者トノ關係、保護ヲ引受クヘキ適當ノ者ナキトキハ其ノ事由ヲ表示スヘシ
 第四十條 假退院ノ許可アリタルトキハ直ニ假退院ノ日時ヲ定メ保護ヲ引受クヘキ者及住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ニ通知スヘシ
 第四十一條 住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ハ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司ヲ定メテ矯正院ニ通知スヘシ
 第四十二條 院長ハ假退院ヲ許ス者ニ假退院證ヲ授與シ遵守スヘキ條件ニ付說示シ保護ヲ引受クヘキ者又ハ少年保護司ニ引渡スヘシ
 第四十三條 前條ノ引渡ヲ爲シタルトキハ院長ハ之ヲ司法大臣ニ申報シ假退院ヲ許可シタル少年審判所ニ通知スヘシ
 第四十四條 假退院者住居ニ到達シタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル保護者ハ少年保護司ニ届出テ少年保護司ハ

託ヲ爲シタル官廳、親權者、後見人、戶主其ノ他又保護者ニ通知スヘシ
 第三十二條 在院者ハ院長ノ許可ヲ受ケ面會又ハ通信ヲ爲スコトヲ得
 第三十三條 面會ハ應接室ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 第七章 領置
 第三十四條 院長ハ在院者ノ所有品ヲ領置シ適當ト認ムルトキハ之ヲ其ノ親權者若ハ後見人ニ交付シ又ハ本人ヲシテ賣却其ノ他ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得
 領置スヘキ物品ハ本人立會ノ上其ノ種目及員數ヲ點檢シ領置品簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
 第三十五條 在院者所有ノ金錢ハ本人立會ノ上其ノ金額ヲ計算シ本人ノ名ニ於テ郵便貯金ノ手續ヲ爲シ其ノ通帳ハ院長之ヲ保管シ領置金簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
 第三十六條 在院者ニ寄贈ノ申出ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得
 第三十七條 領置ノ物品ハ退院又ハ假退院其ノ他領置ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ還付スヘシ但シ在院中ト雖必要アリト認ムルトキハ之ヲ在院者ニ交付スルコ

予給與スルコトヲ得ルハ...
 第五十一條 在院者ニ付處分ヲ取消又ハ變更スルハ...
 第五十二條 在院者逃走及死亡シタルトキハ...
 第五十三條 在院者死亡シタルトキハ...
 第五十四條 院長ハ病名ノ死因及死亡ノ日時ヲ速ニ親權...
 第五十五條 死體ヲ引取人ナキトキハ...
 附則 依リ之ヲ假葬シ死者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シ...

陪審法 第一章 總則
 第一條 裁判所ハ本法ニ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪...
 第二條 死刑及ハ無期ノ懲役若シテ禁錮ニ付ル事件ハ之ヲ...
 第三條 長期ニ付ル懲役又ハ禁錮ニ付ル事件ハ之ヲ...
 第四條 左ニ掲クル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラ...
 第五條 依リテ行ハク公選ニ關シ犯シタル罪ニ付ルハ...
 第六條 被告人ハ檢察官ノ被告事件陳述前ニ何時モ事...
 第七條 被告人ハ公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公...
 第八條 地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞...
 第九條 前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請...
 第十條 管轄裁判所ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ...

前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ...
 第七條 被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公...
 第八條 地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞...
 第九條 前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請...
 第十條 管轄裁判所ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ...

第十三條 禁治產者ニシテ復權ヲ得サルモノ...
 第十四條 破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ...
 第十五條 禁治產者ニシテ復權ヲ得サルモノ...
 第十六條 破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ...
 第十七條 禁治產者ニシテ復權ヲ得サルモノ...
 第十八條 破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ...
 第十九條 禁治產者ニシテ復權ヲ得サルモノ...
 第二十條 破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ...

- 四 懲役六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者
- 第十四條 左ニ掲タル者ハ陪審員ノ職務ニ就カシムルコトヲ得ス
 - 一 國務大臣、文部大臣、文藝院院長、文藝院評議員
 - 二 在職ノ判事、検事、陸軍法務官、海軍法務官
 - 三 在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所評定官
 - 四 在職ノ宮内官
 - 五 現役ノ陸軍軍人、海軍軍人
 - 六 在職ノ府縣長官、郡長、島司、廳支廳長
 - 七 在職ノ警察官吏
 - 八 在職ノ監獄官吏
 - 九 在職ノ裁判所書記長、裁判所書記
 - 十 在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官吏
 - 十一 郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ従事スル者
 - 十二 市町村長
 - 十三 辯護士、辨理士
 - 十四 公證人、執達吏、代書人
 - 十五 在職ノ小學校教員
 - 十六 神官、僧侶、諸宗教師
 - 十七 醫師、齒科醫師、藥劑師
 - 十八 學生、生徒

- 第十五條 陪審員ハ左ニ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラレヘシキ
 - 一 陪審員被害者ナルトキ
 - 二 陪審員私訴當事者ナルトキ
 - 三 陪審員被被告人、被害者若ハ私訴當事者ノ親族ナルトキ
 - 四 陪審員被被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ屬スル家ノ戸主又ハ家族ナルトキ
 - 五 陪審員被被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人、被保佐人ナルトキ
 - 六 陪審員被被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ同居人又ハ雇人ナルトキ
 - 七 陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ
 - 八 陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
 - 九 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 十 陪審員事件ニ付代理人ト爲リタルトキ
 - 十一 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 十二 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 十三 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 十四 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 十五 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 十六 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 十七 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ
 - 十八 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人ト爲リタルトキ

- 第十七條 市町村長ハ毎年陪審員資格者名簿ヲ調製シ九月十日現在ニ依リ其ノ市町村内ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登載スヘシ
- 陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業、住居地、生年月日及納稅額ヲ記載スヘシ
- 市町村長ハ陪審員資格者名簿ヲ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ
- 第十八條 市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其ノ廳ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ
- 第十九條 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレタル者ハ縦覽期間内及其ノ後七日内ニ市町村長ニ異議ヲ申立テ爲スコトヲ得
- 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレサル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ヲ申立テ爲スコトヲ得
- 第二十條 市町村長異議ヲ申立テ正當トスルトキハ遲滞ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ通知スヘシ
- 市町村長異議ヲ申立テ不當トスルトキハ遲滞ナク意見ヲ附テ申立書ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ
- 第二十一條 前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所判事異議ヲ申立テ理由ヲシトスルトキハ其ノ旨ヲ市町村長及異議

- 議申立人ニ通知スヘシ異議ヲ申立テ理由アリトスルトキハ陪審員資格者名簿ヲ修正スヘキコトヲ命ジ其ノ旨ヲ異議申立人ニ通知スヘシ
- 前項ノ通知ハ異議申立書ヲ送付テ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ爲スヘシ
- 第二十二條 地方裁判所長ハ毎年九月一日迄ニ翌年所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域内ノ市町村ニ割當シ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ
- 第二十三條 市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ割當シタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ
- 前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス
- 第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者名簿ニ之ヲ準用ス
- 第二十四條 區裁判所判事ハ陪審員候補者ヲ選定シ關シル事務ヲ市町村長ヲ監督ス
- 區裁判所判事ハ前項ノ事務ヲ市町村長ニ委任スル指示ヲ爲スコトヲ得
- 第二十五條 市町村長ハ十月三十日迄ニ陪審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付ス

市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ニ其
 之旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示スヘシ
 第二十六條 市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審員候補者名
 簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失
 シタル者アルトキ又ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ
 一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ遲滯
 之ヲ之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ
 第二十七條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定
 リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順
 序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ヲ陪審
 員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ
 前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第二十八條 陪審員トシテ呼出ニ應ジタル者ハ其ノ市町
 村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者四分
 三呼出ニ應ジタル後ニ非サレバ其ノ年內再々陪審員
 ニ選定セラレルコトナシ
 第二十九條 陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス
 第三十條 陪審ハ檢察被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所
 書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同ノ陪審員ヲ以テ之ヲ
 構成スルコトヲ要ス
 第三十一條 裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要ス
 充陪審員トキハ十二人ノ陪審員ヲ外ハ人又ハ數人ヲ補
 充陪審員ト公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事
 由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ之ニ代ル
 モフコトス
 第六十五條 陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務ヲ行フハ第
 六十二條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ依ル
 第三十二條 同日ニ數箇ノ事件ヲ公判ヲ開ク場合ニ於テ
 公判期日ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ陪審ヲ構成スル
 コトヲ得此ノ場合ニ於テハ最初ノ事件ヲ取調前其ノ手
 續ヲ爲スヘシ
 第三十三條 檢察及被告人異議大キトキハ一ノ事件ヲ爲
 構成セラレタル陪審員シテ同日ニ審理スヘキ他ノ事件
 ノ爲其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
 第三十四條 陪審員ニハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ旅費ノ日
 當及止宿料ヲ給與ス
 第三十五條 陪審手續
 第三十六條 陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ハ其ノ市町
 村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者四分
 三呼出ニ應ジタル後ニ非サレバ其ノ年內再々陪審員
 ニ選定セラレルコトナシ
 第三十七條 陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス
 第三十八條 陪審ハ檢察被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所
 書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同ノ陪審員ヲ以テ之ヲ
 構成スルコトヲ要ス
 第三十九條 裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要ス
 補充陪審員トキハ十二人ノ陪審員ヲ外ハ人又ハ數人ヲ補
 充陪審員ト公判ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十七條 公判準備期日ニハ被告人及辯護人ヲ召喚ス
 公判準備期日ハ之ヲ檢察ニ通知スヘシ
 第三十八條 召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニ
 ハ少クモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ
 第三十九條 公判期日ヲ定メタル後被告人ノ請求ニ因リ
 事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシタルトキハ其ノ
 公判期日ヲ公判準備期日トス
 第四十條 公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數ノ判事、檢
 事及裁判所書記列席シテ之ヲ爲ス
 公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非サレバ取調
 ヲ爲スコトヲ得辯護人數人アルトキハ其ノ一人ハ出
 頭ヲ以テ足ル
 公判準備期日ニ於ケル取調ハ之ヲ公行セス
 第四十一條 第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付
 スルトキハ裁判長ハ被告人ニ對シ事件ヲ陪審ノ評議ニ
 付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ
 第四十二條 公判準備期日ニ於テハ裁判長ハ公訴事實ニ
 付出頭シタル被告人ヲ訊問スヘシ
 陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得
 檢察事及辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人ヲ訊問スル
 コトヲ得
 第四十三條 公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ必要ナル證

據調ノ決定ヲ爲スヘシ
 檢察事、被告人及辯護人ハ證人訊問、鑑定、檢證又ハ證
 據物若ハ證據書類ノ集取ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ請求ヲ却下スルコトモハ裁判所ハ決定ヲ爲ス
 第四十四條 裁判所書記ハ公判準備調書ヲ作り公判準備
 期日ニ於ケル被告人ニ對スル訊問及其ノ供述、檢察被
 告人辯護人ノ申立、裁判所ノ裁判其ノ他一切ノ訴訟手
 續ヲ記載スヘシ
 第四十五條 公判準備調書ニハ前條ニ規定スル事項ノ外
 被告事件、被告人及出頭シタル辯護人ノ氏名並手續ヲ
 爲シタル裁判所年月日及裁判長陪席判事檢察事裁判所書
 記ノ官氏名ヲ記載シ被告人出頭セサルトキハ其ノ旨ヲ
 記載スヘシ
 第四十六條 公判準備調書ハ三日內若シ整理シ裁判長
 及裁判所書記署名捺印スヘシ
 裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備調書ヲ檢閱シ意見アル
 事キハ其ノ旨ヲ記載スヘシ
 第四十七條 檢察事、被告人及辯護人ハ公判準備期日前第
 四十三條第二項ノ請求ヲ爲スコトヲ得公判期日七日前
 迄亦同シ
 第四十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合若シ準用スル
 第四十八條 裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲

第四十九條 公判準備期日外ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ストキハ被告人モ亦之ニ立會フコトヲ得
 裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタ
 被告ハ之ニ立會フコトヲ得ス但シ裁判所必要ト認
 むルトキハ之ニ立會ハシムルコトヲ得
 第五十條 前條第一項ノ手續ヲ爲スヘキ日時及場所ハ被
 告人ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限
 ニ在ラス
 第五十一條 公判準備中陪審ノ評議ニ付スヘカラサル事
 由生シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ
 公判準備期日ニ於テ前項ノ事由生シタルトキハ其ノ期
 日ヲ公判期日トス但シ訴訟關係人中出頭セサル者アル
 トキハ此ノ限ニ在ラス
 第五十二條 被告人ハ公判準備期日ニ管轄違ノ申立ヲ爲
 スコトヲ得
 前項ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對
 シテ其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコト
 ヲ得ス
 第五十三條 裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ管轄違
 ノ理由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ
 第五十四條 裁判所公判準備期日ニ免訴ノ理由アルコト

ヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ
 免訴ノ決定確定シタルトキハ同一ノ事件ニ付更ニ公訴
 ヲ提起スルコトヲ得ス
 第五十五條 前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見
 ヲ聽クヘシ
 決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第五十六條 第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公
 判準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ失ハス
 第五十七條 公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リ選
 定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ
 第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第五十八條 陪審員ニ對スル呼出狀ハ出頭スヘキ日
 時、場所及呼出ニ應ゼサルトキハ過料ニ處スルコトヲ
 得ルヘキ旨ヲ記載スヘシ
 第五十九條 陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ
 因リ呼出ニ應ズルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務
 ヲ辭スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事
 由ヲ説明スヘシ
 第六十條 陪審手續及公判ノ裁判
 被告人、辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行
 フ前項ノ手續ハ之ヲ公行セス

第六十一條 前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出
 頭スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス
 出頭シタル陪審員二十四人ニ達セサルトキハ裁判長ハ
 之ヲ補充スル爲メ裁判所所在地又ハ其ノ附近ノ市町村ノ
 陪審員候補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ必要ナル員數ノ陪審
 員ヲ選定シ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ呼出スヘシ
 前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第六十二條 陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判
 長ハ其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ
 檢察及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ
 否ヲ問フヘシ
 裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ガ
 除斥ノ理由アリヤ否ヲ問フヘシ
 檢察、被告人及陪審員除斥ノ理由アリトスルトキハ其
 ノ旨ノ申立ヲ爲スヘシ
 除斥ノ理由アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘ
 シ
 第六十三條 出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條
 ノ規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セサル者アリトスル
 トキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ
 第六十四條 檢察及被告人ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及
 補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌
 避スルコトヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルト

キハ被告人ハ尙一人ヲ忌避スルコトヲ得
 被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ行フ共同ノ
 方法ニ付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行ハシムル方法ハ
 裁判長之ヲ定ム
 第六十五條 裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタ
 ル後檢察及被告人ハ忌避スルコトヲ得陪審員數ヲ告知ス
 裁判長ハ其ノ氏名票ヲ一票宛抽籤函ニ以テ抽出シ之ヲ讀上タ
 裁判長ハ其ノ氏名票ヲ讀上ケタルトキハ檢察及被告人ハ承認又
 ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢察ヲ先ニシ被
 告人ヲ後ニス
 忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得
 次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出ス迄ニ陳述ヲ爲スルハ此ト
 キハ承認ヲ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス裁判長抽籤終
 リタル旨ヲ宣言スル迄陳述ヲ爲ササルトキハ亦同
 陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ
 得ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言シタル後亦同
 第六十六條 前條ノ手續ニ依リ陪審ヲ構成スヘキ陪審員
 及補充陪審員ノ員數ヲ充シタルトキハ裁判長ハ抽籤終リ
 タル旨ヲ宣言スヘシ
 第六十七條 陪審ヲ構成スヘキ陪審員ハ初ニ當籤シタル
 十二人ヲ以テ之ニ充テ補充陪審員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ

以テ之ニ充ツル陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル
 第六十八條 陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル
 抽籤ノ順序ニ從ヒ著席スヘシ
 第六十九條 裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前陪審員ニ對
 シ陪審員ノ心得ヲ諭告シ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル
 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
 宣誓書ニハ身心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘキ
 コトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ
 裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲシテ之ニ署
 名捺印セシムルヘシ
 第七十條 裁判長ハ陪席判事ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問
 及證據調ヲ爲サシムルコトヲ得
 陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受テ被告人ノ證人ヲ鑑定人ヲ
 通事及翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得
 第七十一條 證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外裁判所
 ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ルヘシ
 第七十二條 左ニ掲クル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコト
 ヲ得
 一 公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書
 二 檢證、押收又ハ搜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖
 三 公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ

十二 付公務員ノ作リタル書類圖畫ハ其ノ前ニ當該各
 第四十前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシ
 テ其ノ真正ナルコトノ證明アルモノ
 第五 鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫
 第七十三條 裁判所ハ豫審判事、受命判事、受託判事其
 他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事、司
 法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國官署ノ作リタル
 訊問調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之
 ヲ證據ト爲スコトヲ得
 一 共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ
 他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ
 二 被告人又ハ證人公判外ノ訊問ニ對シテ爲シタル供
 述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ於テ變更シタルトキ
 三 被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲サザルトキ
 第七十四條 前二條ノ場合ニ於テ裁判外ニ於テ被告人其ノ
 他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類又ハ裁判外ニ於テ作成
 シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルトキ又
 ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限リ之ヲ
 證據ト爲スコトヲ得
 第七十五條 證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議トキ
 書類圖畫ハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコト
 ヲ得

第七十六條 證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ
 犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ
 付意見ヲ陳述スヘシ
 辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳
 述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得ス
 公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス
 被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フコ
 トヲ得ス
 第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪
 ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證
 據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結
 果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ
 有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス
 第七十八條 裁判長ノ說示ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコ
 トヲ得ス
 第七十九條 裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ
 於テ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲ス
 主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議
 セシムル爲之ヲ爲スモノトス
 補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事
 實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ
 之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル理由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評
 議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト
 分別シテ之ヲ爲スヘシ
 第八十條 陪審員、檢事、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ
 申立ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ
 第八十一條 裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ陪審ニ交付
 ス
 陪審員ハ問書ノ謄本ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得
 第八十二條 裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ
 評議室ニ退カシムヘシ
 裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪
 審ニ交付スルコトヲ得
 第八十三條 陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受タルニ非サレバ
 評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ
 得ス
 陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受タルニ非サレバ
 評議室ニ入ルコトヲ得ス
 第八十四條 陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セ
 タル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ對シ留置ノ場所
 及他人トノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示スヘシ
 第八十五條 陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタ
 ルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラレタル事項ヲ違

守セサルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

第八十六條 陪審員ハ陪審長ヲ互選スルシテ陪審長ハ議事ヲ整理ス

第八十七條 陪審員ハ評議ヲ了ル前更ニ説示ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ其ノ申立ヲ爲ス

第八十八條 答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラズヲ語テ以テ之ヲ爲スヘシ但シ問ニ掲クル事實ノ一部ヲ肯定又ハ否定スルトキハ之ニ付然リ又ハ然ラズヲ語テ以テ答申ス

第八十九條 評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ又ハ評議主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

第九十條 陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示スヘシ

第九十一條 犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ヲ過半數ノ意見ニ依ルコトヲ要ス

第九十二條 答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出スヘシ

第九十三條 陪審員ハ問書ヲ返付シ

更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スルキ旨ヲ命スルコトヲ得

第九十三條 裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲシテ問及之ニ對スル陪審員答申ヲ朗讀セシムルコトヲ得

第九十四條 前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退庭セシムルコトヲ得

第九十五條 裁判所陪審員答申ヲ不當ト認ムルトキハ評議ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審員ニ付スルコトヲ得

第九十六條 陪審員犯罪構成事實ヲ肯定スルニ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲ササルキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

第九十七條 陪審員ハ問書ニ記載シテ事實ノ判斷ヲ爲スルニハ裁判所ハ陪審員ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

第九十八條 引續キ七日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ

公判手續ヲ更新スヘシ

陪審員構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪審員ヲキトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審員構成ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ公訴棄却、管轄違又ハ免訴ノ裁判ヲ爲スヘキ理由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審員評議ニ付セスシテ陪審員ヲ爲スヘシ

第一百條 裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審員構成其ノ他陪審員ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ説示ノ要領ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三節 上訴

第一百一條 陪審員答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 陪審員答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第一百三條 上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條 左ノ場合ニ於テハ常に上告ノ理由アルモノト

一 法律ニ從ヒ陪審員構成セザリシトキ

二 第十二條第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タルコトヲ得サル者評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘザリシトキ

三 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラルヘキ陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ申立ヲ爲サザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 忌避セラレタル陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ此ノ限ニ在ラス

五 裁判長ノ説示法律ニ違反シタルトキ

六 裁判長證據トシテ説示シタルモノノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ

七 裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ説示ヲ爲シタルトキ

第一百五條 上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ラ裁判ヲ爲ス場合ヲ除ク外事件ノ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審員評議ノ結果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審員答申ハ其ノ效力ヲ有ス此ノ場

合ニ於テハ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ答申以後ノ手續ノミヲ爲スヘシ

第四百六條 陪審費用 左ニ掲ケルモノヲ以テ陪審費用トシ訴訟費用ノ一部トス

一 陪審員ノ呼出ニ要スル費用
二 陪審員ニ給與スル旅費、日當及止宿料

第五百七條 陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス

第五百八條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 故ナク呼出ニ應セサルトキ
二 宣誓ヲ拒ミタルトキ

三 第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
四 故ナク退廷シタルトキ

第五百九條 陪審員評議ノ顛末又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 裁判長ノ許可ヲ受ケスシテ陪審ノ評議室ニ入

リ又ハ陪審ノ評議ヲ了ル前裁判所内ニ於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シ請託ヲ爲シ又ハ評議ヲ了ル前私ニ意見ヲ述ベタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前公判期日ヲ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

朕陪審法中一部施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(昭和二年五月二十八日 勅令第四百四十四號)

陪審法第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第三百十三條及第三百十四條ノ規定ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和二年七月二十五日 勅令第六十五號)

朕陪審法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(昭和二年七月二十五日 勅令第六十五號)

陪審法ハ昭和二年勅令第四百四十四號ニ掲グル規定ヲ除ク外昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陪審法施行規則 (昭和二年五月二十八日 司法省令第十六號)

改正 昭和三年七月司法省令第一八號

第一章 陪審法施行規則

第一條 陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 前條ノ名簿ニハ丁數ヲ記入シ職印ヲ以テ每集ノ綴目ニ契印スヘシ

第三條 陪審員資格者名簿ノ副本ハ毎年九月三十日迄ニ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第四條 陪審員資格者名簿ノ縦覽期間ニハ日曜日又ハ一

般ノ休日トシテ指定セラレタル日ヲ算入スルコトヲ得

異議ノ申立ノ期間ノ末日日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキ亦前項ニ同シ

第五條 陪審員資格者名簿縦覽ノ期間ハ其ノ初日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第六條 陪審員資格者名簿ハ之ヲ縦覽ニ供シタル後ハ名簿中脱漏誤載等アルモ異議ノ申立又ハ區裁判所判事ノ命ニ依ル場合ノ外市町村長限リ之ヲ修正スルコトヲ得

第七條 市町村長陪審員資格者名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ年月日及陪審法第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ削除又ハ追加シタル旨ヲ欄外ニ朱書シ捺印スヘシ

第八條 陪審法第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ陪審員資格者名簿ヲ整理シタル後其ノ資格者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ陪審法第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ管轄區

裁判所判事ニ通知スヘシ

第九條 地方裁判所長ハ豫メ翌年一月乃至十二月ニ於テ陪審事件ノ總數ヲ推算シ之ニ基キテ所要ノ陪審員ノ總數ヲ定メ各市町村ニ於ケル陪審員資格者ノ員數ニ之ヲ按分シテ各市町村ニ割當ツヘシ但シ特別ノ事情アル

トキハ適宜ノ標準ニ依リ割當ヲ爲スコトヲ得
 第十條 市町村長地方裁判所長ヨリ割當テラレタル陪審員ノ員數ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者抽籤ノ場所及日時ヲ定メ之ヲ告示スヘシ
 市町村長ハ抽籤ノ立會人ヲ選定シ前項ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ本人ニ通知スヘシ
 立會人ハ正當ノ事由ナクシテ立會ヲ拒ムコトヲ得ス
 第十一條 陪審員候補者ノ抽籤ハ陪審員資格者名簿ニ掲ケル資格者ノ番號ニ符合スル番號票ヲ作製シ之ヲ抽籤函ニ入レ攪拌シタル後一票宛抽籤函ヨリ所要員數ニ達スル迄抽出スヘシ
 第十二條 第八條ニ掲ケル者ハ之ヲ抽籤ヨリ除クヘシ
 第十三條 抽籤函及番號票ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
 第十四條 市町村長陪審員候補者ヲ選定シタルトキハ陪審員候補者選定録ヲ作成スヘシ
 陪審員候補者選定録ニハ左ノ事項ヲ記載シ市町村長抽籤ノ立會人ト共ニ署名捺印シ陪審員候補者名簿ノ副本ト併セテ之ヲ保存スヘシ
 一 選定ノ日時及場所
 二 抽籤ニ立會ヒタル立會人ノ住居氏名年齢
 三 割當テラレタル陪審員候補者ノ員數
 四 第十二條ニ依リ抽籤ヲ除キタル者アルトキハ其ノ

氏名及事由
 五 抽出シタル番號票ノ番號
 六 其ノ他市町村長ニ於テ必要ト認ムル事項
 第十五條 市町村長ハ區裁判所判事ニ送付スルモノノ外陪審員候補者名簿ノ副本ヲ調製シ其ノ應ニ保存スヘシ
 第十六條 陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ノ原本ハ調製ノ日ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ
 第十七條 陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ニ付テハ第十三條ニ定ムル様式ニ依リ抽籤函及番號票ヲ使用スヘシ
 第十八條 陪審法第六十五條ノ氏名票及抽籤函ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
 第十九條 地方裁判所長陪審法第二十六條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入捺印シ當該陪審員候補者ハ之ヲ陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ヨリ除クヘシ
 第二十條 地方裁判所長陪審法第二十七條ノ規定ニ依リ陪審員ヲ選定シタルトキハ陪審員選定録ヲ調製スヘシ
 陪審員選定録ハ毎年之ヲ編綴シテ帳簿ト爲シ翌年一月一日ヨリ五年間保存スヘシ
 第二十一條 地方裁判所長陪審員ノ選定手續ヲ終リタル

トキハ陪審員氏名通知書ヲ作成シ之ヲ當該事件擔當ノ裁判長ニ送付スヘシ

第二十二條 陪審員選定録及陪審員氏名通知書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條 裁判長ハ陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ノ氏名ヲ地方裁判所長ニ通知スヘシ
 地方裁判所長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿中當該氏名欄ニ(出)ノ朱印ヲ押捺スヘシ

附則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陪審法ヲ樺太ニ施行 (昭和二年五月二十八日 勅令第四百四十五號)

朕陪審法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陪審法第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第三百十三條及第三百十四條ノ規定ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ樺太ニ施行ス

(昭和三年七月二十五日 勅令第六十六號)

朕陪審法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陪審法ハ昭和二年勅令第四百四十五號ニ掲グル規定ヲ除クノ外昭和三年十月一日ヨリ之ヲ樺太ニ施行ス

陪審法ヲ樺太ニ施行 陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類

●陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類

(昭和二年五月二十八日 勅令第四百四十六號)

朕陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 陪審法第十二條ノ規定ニ依ル内地又ハ樺太ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

- 一 地租
- 二 第三種所得稅
- 三 營業收益稅
- 四 砂鑛區稅
- 五 乙種資本利子稅
- 六 鑛業稅
- 七 市街宅地稅
- 八 漁業稅

附則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 國稅營業稅ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ營業收益稅ト看做ス

明治四十一年三月二十八日
 法律第二十號
 朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル監獄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則
 第一條 監獄ハ之ヲ左ノ四種トス
 一 懲役監獄
 二 禁錮監獄
 三 拘留場
 四 拘置監獄

第二章 懲役監獄
 第一條 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第二條 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第三條 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第四條 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

第三章 禁錮監獄
 第一條 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第二條 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第三條 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第四條 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

第四章 拘留場
 第一條 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第二條 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第三條 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第四條 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

第五章 拘置監獄
 第一條 拘置ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第二條 拘置ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第三條 拘置ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第四條 拘置ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

第六章 附設
 第一條 附設ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第二條 附設ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第三條 附設ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第四條 附設ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

第七章 附設
 第一條 附設ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第二條 附設ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第三條 附設ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 第四條 附設ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

第二章 收監

第十一條 新に入監スル者アルトキハ令狀又ハ判決書及ヒ執行指揮書其他適法ノ文書ヲ査閲シタル後入監セシム可シ

第十二條 新に入監スル婦女子其子ヲ携帶センコトヲ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限り滿一歳ニ至ルマデ之ヲ許スコトヲ得

第十三條 監獄ニ於テ分焼シタル子ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル

第十四條 新に入監スル者傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ヲ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ之ヲ入監セシメサルコトヲ得

第十五條 新に入監スル者アルトキハ其身體及ヒ衣類ノ檢査ヲ爲スコシ在監中ノ者ニ付キ必要ト認ムルトキ亦同シ

第三章 拘禁

第十六條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第十七條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第十八條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第十九條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十一條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十二條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十三條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十四條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十五條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

必要ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ工場ニ於ケル就業ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十七條 刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノハ五ニ其監房ヲ別異シ監房外ニ於テモ其交通ヲ遮斷ス

第十八條 懲役監、禁錮監、拘留場、拘留監及ヒ勞役場病監又ハ教誨堂ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ因リ監房若クハ座席又ハ診察若クハ教誨ノ時間ヲ異ニス

第十九條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十一條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十二條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十三條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十四條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

第二十五條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモ

三 逃走ノ目的ヲ以テ多衆擾亂スルトキ

四 逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレント

第二十一條 天災事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ在監者ヲシテ應急ノ業務ニ就カシムルコトヲ得

第二十二條 天災事變ニ際シ監獄内ニ於テ避難ノ手段ナシト認ムルトキハ在監者ヲ他所ニ護送ス可シ若シ護送スルノ途キトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

第二十三條 在監者逃走シタルトキハ監獄官吏ハ逃走後四十八時間内ニ限り之ヲ逮捕スルコトヲ得

第二十四條 在監者逃走シタルトキハ監獄官吏ハ逃走後前項ノ規定ハ刑事訴訟法第六十條ノ適用ヲ妨ケス

第五章 作業

第二十四條 作業ハ衛生、經濟及ヒ在監者ノ刑期、健康、技能、職業、將來ノ生計等ヲ斟酌シテ之ヲ課ス

第二十五條 大祭祝日、一月一日、二月二日及ヒ十二月三十一日ニハ就業ヲ免ス

父母ノ計ニ接シタル者ハ三日間其就業ヲ免ス

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ免スルコトヲ得

第二十六條 刑事被告人ハ拘留場又ハ禁錮囚作業ニ就カシムルコトヲ請フトキハ其選擇スルモノニ就キ之ヲ許スコトヲ得

第二十七條 作業ノ收入ハ總テ國庫ノ所得トス

在監者ニシテ作業ニ就クモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第二十八條 在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲メニ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ手當金ヲ給スルコトヲ得

前項ノ手當金ハ釋放ノ際本人ニ之ヲ給シ死亡ノ場合ニ於テハ死亡者ノ父母、配偶者又ハ子ニ之ヲ給ス

第六章 教誨及ヒ教育

第二十九條 受刑者ニハ教誨ヲ施ス可シ其他ノ在監者教誨ヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十條 十八歳未満ノ受刑者ニハ教育ヲ施ス可シ其他ノ受刑者ニシテ特ニ必要アリト認ムルモノニハ年齢ニ

拘ハラス教育ヲ施スコトヲ得
 第三十一條 在監者文書、圖畫ノ閱讀ヲ請フトキハ之ヲ許ス
 文書、圖畫ノ閱讀ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第七條 給養
 第三十二條 受刑者ニハ一定ノ衣類臥具ヲ着用セシム但
 拘留囚ニハ自衣ノ着用ヲ許シ其他ノ者ニハ襯衣ノ自辨
 ヲ許スコトヲ得
 第三十三條 刑事被告人及ヒ勞役場留置ヲ言渡テ受ケタ
 ル者ヲ衣類臥具ハ自辨トシ其自辨スルコト能ハサル者
 ニハ之ヲ貸與ス
 自辨ノ衣類臥具ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十四條 在監者ニハ其體質、健康、年齡、作業等ヲ
 斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ給ス
 第三十五條 刑事被告人ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得
 第三十六條 在監者ノ頭髮鬚髯ハ之ヲ剪剃セシムルコト
 ヲ得但刑事被告人ノ頭髮鬚髯ハ衛生上特ニ必要アリト
 認ムル場合ヲ除外其意思ニ反シテ之ヲ剪剃セシムル
 コトヲ得ス
 第三十七條 在監者ハ其拘禁セラルル監房ノ清潔ヲ保ツ
 必要ナル用務ニ服ス可シ
 第三十八條 在監者ニハ其健康ヲ保ツニ必要ナル運動ヲ

爲サシム
 第三十九條 在監者ニハ種痘其他傳染病豫防ニ必要ト認
 ムル醫術ヲ行フコトヲ得
 第四十條 在監者疾病ニ罹リタルトキハ醫師ヲシテ治療
 セシム必要アルトキハ之ヲ病監ニ收容ス
 第四十一條 傳染病者ハ嚴ニ之ヲ隔離シ健康者及ヒ他ノ
 病者ニ接近セシムルコトヲ得ス但懲役囚ヲシテ看護セ
 シムルハ此限ニ在ラス
 第四十二條 病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治療ヲ補助セ
 シメシムルコトヲ請フトキハ其情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ
 得
 第四十三條 精神病、傳染病其他ノ疾病ニ罹リ監獄ニ在
 テ適當ノ治療ヲ施スコト能ハスト認ムル病者ハ情狀ニ
 因リ假ニ之ヲ病院ニ移送スルコトヲ得
 前項ニ依リ病院ニ移送シタル者ハ之ヲ在監者ト看做ス
 第四十四條 妊婦、產婦、老衰者及ヒ不具者ハ之ヲ病者
 ニ準スルコトヲ得
 第四十五條 在監者ニ接見セシムコトヲ請フ者アルトキハ
 之ヲ許ス
 受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト接見ヲ爲サシムルコト
 ヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス
 第四十六條 在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ受ケルコト

ヲ許ス
 受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト信書ヲ發受テ爲サシム
 ルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在
 ラス
 第四十七條 受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當ト認ムルモ
 ノハ其發受ヲ許サス
 前項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ二年ヲ經過シタル後
 之ヲ廢棄スルコトヲ得
 第四十八條 裁判所其他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル
 文書ハ披閱シテ之ヲ本人ニ交付ス
 第四十九條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ前條ノ文書ハ
 本人閱讀ノ後之ヲ領置ス
 第五十條 接見ノ立會、信書ノ檢閱其他接見及ヒ信書ニ
 關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十條 領置
 第五十一條 在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ之ヲ領置ス
 保存ノ價值ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル物ハ其領置
 ヲ爲サス又ハ之ヲ解クコトヲ得
 領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解キタル物ニ付キ在監者相當ノ
 處分ヲ爲ササルトキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得
 第五十二條 在監者領置物ヲ以テ其父、母、配偶者又ハ
 子ノ扶助其他正當ノ用途ニ充テシムコトヲ請フトキハ情
 狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第五十三條 在監者ニ差入テ爲サンコトヲ請フ者アルト
 キハ命令ヲ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得
 在監者ニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ其差出人ノ氏名
 若クハ居所不明ナルトキ、其差入ヲ許ス可カラスト認
 ムルトキ又ハ在監者ニ於テ其受領ヲ拒ミタルトキハ之
 ヲ没入又ハ廢棄スルコトヲ得
 第五十四條 在監者ノ私ニ所持スル物ハ之ヲ没入又ハ廢
 棄スルコトヲ得
 第五十五條 領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス
 第五十六條 死亡者ノ遺留物ハ請求ニ因リ相續人、家族
 又ハ親族ニ之ヲ交付ス
 第五十七條 死亡者ノ遺留物ハ死亡ノ日ヨリ一年內ニ前
 條ニ掲ケタル者ノ請求ヲキトキハ國庫ニ歸屬ス
 逃走者ノ遺留物ニシテ逃走ノ日ヨリ一年內ニ居所分明
 セサルトキ亦同シ
 第六十條 賞罰
 第五十八條 受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇ヲ爲スコト
 ヲ得
 賞遇ノ種類及ヒ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十九條 在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲罰ニ處ス
 第六十條 懲罰ハ左ノ如シ
 一、叱責
 二、賞遇ノ三月以內ノ停止

三 賞遇ノ廢止
 四 文書、圖書、閱讀ノ三月以内ノ禁止
 五 請願作業ノ十日以内ノ停止
 六 自辨ニ係ル衣類、臥具、著用ノ十五日以内ノ停止
 七 糧食自辨ノ十五日以内ノ停止
 八 運動ノ五日以内ノ停止
 九 作業賞與金計算高ノ一部又ハ全部減削
 十 七日以内ノ減食
 十一 二月以内ノ輕屏禁
 十二 七日以内ノ重屏禁
 屏禁ハ受罰者ヲ罰室内ニ晝夜屏居セシメ情狀ニ因リ就業セシメサルコトヲ得、重屏禁ニ在テハ仍ホ罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス
 第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得
 第六十一條 前條第一項第十號ノ懲罰ハ刑事被告人及ヒ十八歳未満ノ在監者ニ之ヲ科セス
 第六十二條 懲罰ニ處セラレタル者疾病其他特別ノ事由アルトキハ其懲罰ヲ執行ヲ停止スルコトヲ得
 懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ其懲罰ヲ免除スルコトヲ得
 第十二章 釋放
 第六十三條 在監者ノ釋放ハ恩赦、職權アル者ノ命令又ハ刑期ノ終了ニ因リ關係文書ヲ查閱シテ其手續ヲ爲ス

可シ
 第六十四條 恩赦ヲ受ケ又ハ假出獄若クハ假出場ヲ許サレタル者ハ其裁可狀又ハ許可書ノ監獄ニ達シタル後二十四時間内ニ之ヲ釋放ス
 第六十五條 前條ノ場合ヲ除ク外命令ニ因リ釋放ヲ爲ス可キ者ハ命令書ノ監獄ニ達シタル後十時間内ニ之ヲ釋放ス
 第六十六條 假出獄又ハ假出場ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ之ニ證據ヲ交付ス
 第六十七條 假出獄ヲ許サレタル者ハ其期間左ノ規定ヲ遵守ス可シ
 一 正業ニ就キ善行ヲ保ツコト
 二 警察官署ノ監督ヲ受クルコト但警察官署ハ監獄ノ注意見ヲ聽キ他ニ其監督ヲ委任スルコトヲ得
 三 住居ヲ轉移シ又ハ十日以上旅行ヲ爲サントスルトキハ監督者ノ許可ヲ請フコト
 主務大臣ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ帝國外ニ旅行ヲ爲スヲ許スコトヲ得
 第六十八條 滿期ノ者ハ其刑期終了ノ翌日午後六時マテ之ヲ釋放ス
 第六十九條 釋放セラレ可キ者重キ疾病ニ罹リ監獄ニ於テ醫療中ナルトキハ其請求ニ因リ仍ホ在監セシムルコトヲ得

第七十條

第七十條 釋放セラレ可キ者歸住旅費若クハ相當ノ衣類ヲ有セザルトキ又ハ監獄行政ノ便宜ニ因リ移監セシメタルカ爲メ歸住旅費ノ増加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ旅費ヲ給與スルコトヲ得
 第十三章 死亡
 第七十一條 死刑ノ執行ハ監獄内ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス大祭祝日、一月一日、二月一日及ヒ十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セス
 第七十二條 死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍ホ五分時ヲ經ルニ非サレハ絞繩ヲ解クコトヲ得ス
 第七十三條 在監者死亡シタルトキハ之ヲ假葬ス
 死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコトヲ得
 死體又ハ遺骨ハ假葬後二年ヲ經テ之ヲ合葬スルコトヲ得
 第七十四條 死亡者ノ親族故舊ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者アルトキハ何時ニテモ之ヲ交付スルコトヲ得但合葬後ハ此限ニ在ラス
 第七十五條 受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲メ病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得
 附則
 本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 監獄則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍

ホ其效力ヲ有ス

監獄法施行規則

(明治四十一年六月十六日)

改正 大正一〇年第一九號、一一年第一號、第一三號、第二四號、一三年第四號

監獄法施行規則左ノ通相定ム
 第一章 總則
 第一條 逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁ス可キ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス
 外國艦船乗組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ準ス
 第二條 監獄ノ參觀ハ男子ニハ男監、女子ニハ女監ニ限リ之ヲ許ス但司法大臣ヨリ特別ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
 未成年者ニハ監獄ノ參觀ヲ許サス
 外國人監獄ヲ參觀スルニハ司法大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
 第三條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其氏名、身分、職業、住所、年齢及ヒ參觀ノ目的ヲ調査シ許可ヲ與ヘタル者ニハ參觀者心得事項ヲ告知ス可シ
 第四條 司法大臣ニ情願ヲ爲スニハ其旨趣ヲ記載シタル

書面ヲ差出スコトヲ要スル者ハ其書面ハ當該監獄官ハ之ヲ披
本情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披
閱スルコトヲ得ス
情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ司法大臣ニ
進達ス可シ

第五條 巡閱官吏ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ情願ヲ爲スコ
トヲ得

巡閱官吏ニ情願ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ
典獄ハ其者ノ氏名ヲ情願簿ニ記載シ置ク可シ
前條第二項ノ規定ハ本條ノ情願書ニ之ヲ適用ス

第六條 巡閱官吏情願ヲ聽クニハ必要アル場合ヲ除ク外
監獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシム可カラス

第七條 巡閱官吏情願ヲ審查シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲
シ又ハ司法大臣ノ裁決ヲ乞フコトヲ得

巡閱官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其要旨ヲ
記載ス可シ

第八條 情願ニ對スル裁決ハ典獄速ニ之ヲ本人ニ告知ス
可シ

第九條 典獄ハ每週一回以上面接日ヲ定メ監獄ノ處置又
ハ一身ノ事情ニ付キ申立ヲ爲サンコトヲ請フ在監者ニ
面接ス可シ

前項ノ申立ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ其氏
名ヲ面會簿ニ記載シ置キ其順序ニ從ヒ面接シタル後本

第十六條 新ニ入監スル者刑事訴訟法第三百十九條第二
項各號ニ該當スルモノト認ムルトキハ之ヲ入監セシメ
タル上監獄醫ノ診斷書ヲ添へ直ニ其旨ヲ檢事ニ通報ス
可シ

第十七條 新ニ入監スル者ニ之ヲ準用スル
前項ノ規定ハ在監中ノ者ニ之ヲ準用ス

第十八條 入監者ニハ番號ヲ付シ在監中其番號票ヲ上衣
ノ襟又ハ胸部ニ附著セシム可シ但本人監外ニ在ル間ハ
番號票ヲ除去セシムルコトヲ得

第十九條 典獄ハ在監者ノ遵守スヘキ事項並ニ刑期ノ起
算及ヒ終了ノ日ヲ入監者ニ告知スヘシ

典獄ハ入監者ノ身上ニ關スル事情ヲ調査シ其結果ヲ身
上票ニ記載ス可シ

前項ノ調査ヲ爲スニ付キ必要アリト認ムルトキハ裁判
所、警察官署、市區町村役場又ハ本人ニ縁故アル者ニ
照會ヲ爲ス可シ

監獄法施行規則 拘禁

第二十條 典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ
書面ヲ差出スコトヲ要スル者ハ其書面ハ當該監獄官ハ之ヲ披
本情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披
閱スルコトヲ得ス
情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ司法大臣ニ
進達ス可シ

第二十一條 新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ
氏名、領收ノ年月日時及ヒ領收官吏ノ氏名ヲ記載シタ
ル領收書ヲ護送者ニ交付ス可シ

第二十二條 新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許サル場合
ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其子ヲ監獄所在地ノ市
區町村役場ニ引渡ス可シ

携帶ヲ許シタル子カ滿一歳ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許ス
可カラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ
亦同シ

第二十三條 新ニ入監スル者アルトキハ監獄醫其健康ヲ診
査ス可シ

第二十四條 監獄ニ於テ避病監其他傳染病者ノ收容ニ適當
ノ設備アルトキハ傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行
ヲ必要トスル傳染病ニ罹ル者ト雖モ之ヲ入監セシム可
シ

第二十五條 監獄法第十三條ニ依リ入監セシメサル場合ニ
於テハ直ニ其旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及ヒ監獄所在
地ノ警察官署ニ通報シ仍ホ其事情ヲ司法大臣ニ申報ス
可シ

第二十六條 新ニ入監シタル者ハ疾病其他已ムコトヲ得
サル場合ヲ除ク外三日以内ノ獨居拘禁ニ付ス可シ

前項ノ受刑者ニハ文書圖畫ノ閱讀ヲ許サス懲役囚ニハ
作業ヲ課セサルコトヲ得

第二十七條 入監者ノ身分帳簿、名簿原簿、在監人人名
簿及ヒ放免曆簿ハ收監後三日以内ニ整理シ必要ナル事項
ヲ記載ス可シ

在監者遵守事項ハ冊子トシテ之ヲ監房内ニ備へ置ク可
シ

第二十八條 獨居拘禁ニ付セラレタル者ハ他ノ在監者ト
交通ヲ遮斷シ召喚、運動、入浴、接見、教誨、診療又
ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外常ニ一房ノ内ニ獨居
セシム可シ

第二十九條 刑事被告人ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス
可シ

第三十條 受刑者ハ本則ニ於テ特ニ規定アル場合ヲ除
ク外左ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

一 刑期二月未滿ノ者
二 二十五歳未滿ノ者
三 初犯ノ者
四 入監後二月ヲ經過セサル者

餘罪又ハ刑期限内ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ル受刑者ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

獨居監房ニ殘餘アルトキハ前二項ニ該當セサル受刑者ト雖モ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十六條 在監者ノ精神又ハ身體ニ害アリト認ムルトキハ在監者ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十七條 獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス但特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月毎ニ其期間ヲ更新スルコトヲ妨ケス

第十八歳未満ノ者ハ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除ク外六月以上繼續シテ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十八條 典獄及ヒ監獄醫ハ少クトモ二十日毎ニ一回、其他ノ監獄官吏ハ毎日數次獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視ス可シ

第二十九條 典獄、監獄醫、教誨師及ヒ女監取締ヲ除ク外監獄官吏ハ單獨ニテ獨居拘禁ニ付セラレタル婦女ヲ巡視スルコトヲ得ス夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル婦女ノ巡視ニ付キ亦同シ

第三十條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視シタル監獄官吏ハ其視察シタル事項ヲ典獄ニ報告ス可シ

第三十一條 第二十五條第一項及ヒ第二項ニ掲ケタル受刑者ニシテ監房不足ノ爲メ獨居拘禁ニ付スルコト能ハ

サルモノ及ヒ獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムルモノハ之ヲ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第二十五條 第三項ノ規定ハ夜間獨居監房ニ之ヲ準用ス

第三十二條 夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖モ仍ホ在房セシムヘシ

第三十三條 勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ト受刑者トハ之ヲ同一ノ監房又ハ工場ニ雜居セシムルコトヲ得

第三十四條 病者又ハ不具者ト健康者トハ之ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但看護ニ從事スルモノハ此限ニ在ラス

第三十五條 雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁ス可シ但療養其他已ムコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第三十六條 雜居監房、工場、教場及ヒ教誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止ス可シ

第三十七條 監房ニハ疊ヲ數クコトヲ得ス但拘置監、女監及病監ハ此限ニ在ラス

第三十八條 雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

第三十九條 監房ノ前ニハ小札ヲ掲ケ在房者ノ番號ヲ記載ス可シ

第四十條 雜居監房ニハ其容積、定員及ヒ現在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲ケ可シ

第四章 戒護

第四十一條 監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ヲ携帶品ヲ検査ス可シ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第四十二條 監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及ヒ現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置クヘシ若シ必要ニ因リ一時開放スルトキハ其要所ヲ守衛ス可シ

鑰匙ハ一定メ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ニ非サレハ其授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ヲシテ監房ヲ開扉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但病監ニ在リテハ此限ニ在ラス

第四十四條 監獄ノ構内ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其他戒護ノ障礙ト爲ル可キ物ヲ置ク可カラ

己ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其他攀越ノ用ニ供シ得可キ物ヲ構内ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施ス可シ

第四十五條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ毎日一回監房ヲ検査ヲ爲サシム可シ

第四十六條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及ヒ衣類ヲ検査ヲ爲サシム可シ

第四十七條 在監者ニシテ戒護ノ爲メ離隔ノ必要アルモ

第四十八條 戒具ハ左ノ五種トス

一 手錠

二 手籠

三 手錠及手籠

四 手籠及手錠

五 手籠及手錠

鐵ヲ使用スルニハ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ之ニ貫キ腰間ニ綴帶セシメ綴帶ノ所ニ下鍵ス

聯鎖ヲ使用スルニハ之ヲ腰間ニ綴帶セシメ綴帶ノ所ニ下鍵シ二人毎ニ連紳ス

第四十九條 戒具ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條 穿衣ハ危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、飲ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚、手錠及ヒ捕繩ハ暴行、逃走若クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、聯鎖ハ監外ノ作業ニ就ク懲役囚ニシテ必要アリト認ムル者ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

穿衣ハ六時間以上、兩脚施錠ハ六月以上、一脚施錠ハ一年以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第五十一條 監獄官吏在監者ニ對シテ鐵又ハ銃ヲ使用シ

第五十二條 典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ豫メ消防ノ用務ニ就カシ
 第五十三條 監獄法第二十三條ニ依リ在監者ヲ解放スル
 第五十四條 在監者ヲ他所ニ護送ス可キ場合ニ於テハ監
 第五十五條 護送中ハ男女ヲ同行セシム可カラス刑事被
 第五十六條 在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所
 第五十七條 前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其事實ヲ司法大
 第五十八條 在監者ノ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ
 第五十九條 在監者ノ逃走者ノ立寄ル可キ見込アル地方
 第六十條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十一條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十二條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十三條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十四條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十五條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十六條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十七條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十八條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第六十九條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報
 第七十條 在監者ノ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報

第五十八條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第五十九條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十一條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十二條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十三條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十四條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十五條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十六條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十七條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十八條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第六十九條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム
 第七十條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣ノ之ヲ定ム

第六十四條 請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アル
 第六十五條 典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受頁
 第六十六條 刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムル
 第六十七條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日一回各就業者ニ
 第六十八條 仕上高ハ毎月末日ニ其月分ヲ積算シ一日ノ
 第六十九條 前項ノ例ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ
 第七十條 左ニ掲クル者ニハ作業賞與金ヲ計算ヲ爲サス
 第七十一條 前項ノ例ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ
 第七十二條 監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キ
 第七十三條 在監者ノ惡意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、
 第七十四條 就業者ニハ毎月十五日マテニ前月分ノ作業
 第七十五條 作業賞與金ハ其計算高ヲ有スル者生計上必
 第七十六條 十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑
 第七十七條 妻若クハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル
 第七十八條 賠償又ハ書籍ノ購求其他必要アル場合ニ於テハ情狀ニ

第三十行狀不更ニシテ作業成績劣等ナルモノ
 第七十一條 作業賞與金ハ行狀、性向、作業ノ種類、成
 第七十二條 監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キ
 第七十三條 在監者ノ惡意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、
 第七十四條 就業者ニハ毎月十五日マテニ前月分ノ作業
 第七十五條 作業賞與金ハ其計算高ヲ有スル者生計上必
 第七十六條 十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑
 第七十七條 妻若クハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル
 第七十八條 賠償又ハ書籍ノ購求其他必要アル場合ニ於テハ情狀ニ

因リ在監中ト雖モ作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超エサル金額ヲ給スルコトヲ得
 受刑者ノ爲メ特ニ必要アリト認ム可キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得
 第七十七條 作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其父、母、妻又ハ子ノ扶助其他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得
 第七十八條 作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六箇月内ニ其居所分明セザルトキハ其計算高ヲ抹消ス可シ
 第七十九條 監獄法第二十一條及ヒ第二十八條ニ依ル手當金ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ給與ス可シ
 第六十條 教誨及ヒ教育ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲サシムルコトヲ得
 第八十一條 病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就キ教誨ヲ爲ス可シ
 第八十二條 受刑者父母ノ計ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲ス可シ
 前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其亡父母ヲ爲メ讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條 恩赦、假出獄若クハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其式場ニ受刑者ヲ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲ス可シ
 第八十四條 受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メテ棺前ニ於テ教誨ヲ爲ス可シ
 第八十五條 監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以内小學程度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ教授ス可シ
 前項ノ受刑者ニシテ小學程度ニ卒業シタルモノ又ハ之ニ同等ノ學力アルモノニハ其教育ノ程度ニ應ジ毎日二時間以内相當ノ補習學科ヲ教授ス可シ
 第八十六條 文書圖書ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限リ之ヲ許ス可シ
 新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其閱讀ヲ許ス可シ
 第八十七條 雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以上ノ文書圖書ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但掌書ハ必要ニ因リ其冊數ヲ増加スルコトヲ得
 第八十八條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房内ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ヲ使用ヲ許ス可シ
 第七十條 給養ニ必要アリト認ムルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ雜具ノ品目ヲ増加スルコトヲ得
 第九十條 在監者ノ使用ニ供スル衣類、臥具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付キ一箇トス但蚊蠅ハ此限ニ在ラス
 作業ニ就ク者ニハ別ニ作業衣一組ヲ交付ス可シ
 用紙及ヒ齒磨粉又ハ齒磨用食鹽ノ數量ハ典獄ニ於テ適宜ノヲ定ム
 第九十一條 受刑者ニ著用セシムル衣類ハ褐色トス
 左ニ掲ケル衣類、臥具ハ淺葱色トス
 一、刑事被告人ニ貸與スル衣類
 二、勞務場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類
 三、十八歳未満ノ受刑者ニ著用セシムル衣類
 四、處遇上必要アリト認メタル受刑者ニ著用セシムル衣類
 五、蒲團

品目ハ左ノ如シ
 一、衣類
 二、單衣
 三、綿入
 四、襪衣
 五、帶
 六、襪
 七、股引
 八、婦女ニハ股引ニ代ヘ前垂ヲ用ヒシム
 九、臥具
 一〇、蒲團及ハ毛布
 一一、敷布
 一二、枕
 一三、蚊蠅
 一四、雜具
 一五、手巾
 一六、雨具
 一七、冠物
 一八、履物
 一九、齒磨粉
 二〇、齒磨用食鹽
 二一、前垂
 二二、前垂ノ作業者ニ限リ之ヲ交付ス
 二三、齒磨粉及ハ齒磨用食鹽ハ之ヲ給與ス可シ

第九十二條 自辨ノ衣類、臥具ハ時季ニ適シ且ツ監獄ノ紀律及ヒ衛生ニ害ナキ物ニ限ル
 自辨ノ衣類、臥具ノ品目及ヒ箇數ハ典獄之ヲ定ム可シ

第九十三條 自辨ノ衣類臥具ハ時々之ヲ交換、補綴又ハ洗濯セシム可シ
 監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ洗濯シタルトキハ其費用ハ本人ノ負擔トス

第九十四條 在監者ニ給與スル糧食ノ種類及ヒ分量ハ左ノ如シ

一 飯 下白米十分ノ四
 二 菜 十分ノ六

一人一回三合以下
 一人一日五錢以下

地方ノ狀況若クハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲メ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

第九十五條 在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコトヲ得

第九十六條 在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ウルコトヲ許サス

第九十七條 病者ノ糧食及ヒ飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條 自辨糧食ノ種類及ヒ分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十九條 自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認めタルトキハ典獄ハ其者ノ出入ヲ禁止ス可シ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第一百條 自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其検査ヲ爲ス可シ

第一百一條 雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ル可ク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用キシム可シ

第一百二條 監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類臥具及ヒ雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用キテ之ヲ清淨ナラシム可シ

第一百三條 受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎一回、鬚髯ハ少クトモ十日毎一回之ヲ剃剃セシム可シ但特別ノ事情アル者ニ付テハ此限ニ在ラズ

第一百四條 頭髮鬚髯ヲ剃剃セシメサレ場合ニ於テハ常ニ之ヲ梳理セシム可シ

第一百五條 在監者ノ入浴ノ次數ハ作業ノ種類及ヒ其他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但六月ヨリ九月マテハ五回毎一回、十月ヨリ五月マテハ七月毎一回、下ルコトヲ得

第一百六條 在監者ニハ雨天又ハ外毎日三十分以内戶外ニ於テ之ヲ梳理セシム可シ

第一百七條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第一百八條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第一百九條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

運動ヲ爲サシム可シ但作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要アリト認めタルトキハ此限ニ在ラズ

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限リ一時間以内ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ戶外運動ヲシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歳未満ノモノハ少クトモ三十日毎一回、其他ノモノハ少クトモ三月毎一回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月毎一回、監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシム可シ

第八條 十八歳未満ノ者ハ其他ノ者ト治療ノ時間及ヒ病室ニ於テ居室ヲ異ニス可シ

第九條 獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病室ニ移シタル場合ニ於テ除外其監房ニ於テ治療セシメ病室ニ移シタルトキハ成ル可ク病室内ノ獨居病室ニ拘禁ス可シ

第十條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴シシ流病行地ヲ發シ又其地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其攜帶物ニハ消毒方法ヲ行フ可シ

第十一條 傳染病豫防ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血清注射ヲ施スコトヲ得

第十二條 傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及ヒ購求ヲ停止スルコトヲ得

第一百三條 在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第一百四條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第一百五條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十六條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十七條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十八條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十九條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十一條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十二條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十三條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十四條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十五條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十六條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十七條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十八條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第二十九條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第三十條 在監者ノ傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第九條 接見及ヒ信書
 第十四條 未滿ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲ス
 第二十條 接見ノ時間ハ三十分以内トス但辯護人ト
 接見ハ此限ニ在ラス
 第二十二條 接見ハ職務時間内ニ非サレハ之ヲ許サス
 第二十三條 接見ノ度數ハ拘留因ニ付テハ十日毎ニ一
 回、禁錮因ニ付テハ一月毎ニ一回、懲役因ニ付テハ二
 月毎ニ一回トス
 第二十四條 典獄ニ於テ已ムコトヲ得テ事情アリ
 認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 第二十五條 在監者ニ接見セシムコトヲ請フ者アルトキ
 及ヒ面談ノ要旨ヲ聞取リ許可ヲ與ハタル者ニハ接見者
 心得事項ヲ告知ス可シ
 接見セシムコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其氏名、職業
 及ヒ住所ノミヲ聞取リ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲
 第百二十六條 接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシム可シ
 在監者疾病ヲ爲メ接見室ニ赴クコト能ハサルトキハ其
 居所ニ於テ接見ヲ爲サシムルコトヲ得
 第百二十七條 接見ニハ監獄官吏之ニ立會フ可シ
 第百二十八條 外國語ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見

入際之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第二十九條 受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留因ニ付
 テハ十日毎ニ各一通、禁錮因ニ付テハ一月毎ニ各一通、
 懲役因ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超エルコトヲ得ス
 典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ
 前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 第三十條 在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閱ス可
 シ
 發信ハ封緘ヲ爲サシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ
 典獄之ヲ開披シ檢印ヲ捺捺ス可シ
 第三十一條 外國文ヲ用キタル信書ハ檢閱ノ爲メ在監
 者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得
 在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力欠ク又ハ其負擔ヲ肯
 セサルトキハ信書ヲ發受ササルコトヲ得
 第三十二條 受刑者ノ發送スル信書ハ急速ヲ要スル場
 合ヲ除ク外且曜日、休業日又ハ休憩時間内ニ非サレハ
 之ヲ作成セシムルコトヲ得ス
 第三十三條 在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキ
 ハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書ス可シ
 第三十四條 在監者ノ發送スル信書ハ郵便稅ハ自辨
 ス裁判所其他公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵
 便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支
 辨ス可シ

書信用紙及ヒ封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得
 第三十五條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ其他ノ文書
 ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ
 得
 第三十六條 信書ノ檢閱、發送及ヒ交付ノ手續ハ成ル
 可ク速ニ之ヲ爲ス可シ
 第三十七條 信書ノ發送、交付及ヒ廢棄ノ年月日ハ之
 ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ
 第三十八條 第二百二十九條ニ定メタル度數ヲ超エタル
 信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其
 受信ニ係ルモノハ假リニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期
 間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付ス可シ
 監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ
 身分帳簿ニ添附シ置キ廢棄ス可キモノヲ除ク外釋放ノ
 際之ヲ本人ニ交付ス可シ
 第三十九條 接見ノ立會及ヒ信書ノ檢閱ノ際行刑上參
 考ト爲ル可キ事項ヲ發見シタルトキハ其要旨ヲ本人ノ
 身分帳簿ニ記載ス可シ
 第四十條 領置物ハ其品目及ヒ數量ヲ領置金品基帳ニ
 記載シ領置金品基帳ニハ典獄之ニ證印ス可シ
 第四十一條 金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ
 之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付キ本人相當ノ
 處分ヲ爲ササルトキハ請求ヲキト雖モ前項ノ處分
 ヲ爲ス可トヲ得
 第四十二條 在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シ
 タル文書及ヒ監獄ノ紀律ヲ害ス可キ物ノ差入ヲ爲ス
 コトヲ得ス
 第四十三條 受刑者ニハ法令其他典獄ニ於テ有益ト認
 ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便葉書、金錢
 及ヒ司法大臣ニ於テ認可シタル物ヲ除ク外差入ヲ爲ス
 コトヲ得ス但自辨ヲ許シタル物ハ此限ニ在ラス
 第四十四條 刑事被告人ニハ前條ニ掲ケタル物ノ外衣
 類、飲食、手巾及ヒ履物ニ限リ差入ヲ爲ス可ト
 ヲ得
 第四十五條 衣類、履物、手巾、差入ニ付テハ第九十二條、飲
 食物ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス
 第四十六條 在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アル
 トキハ其氏名、身分、職業及ヒ住所ヲ調査ス可シ
 第四十七條 在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及ヒ差入
 ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ檢査ス可シ
 飲食物ノ檢査ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシム可シ
 第四十八條 自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付
 セサルトキト雖モ携有物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲ス
 可シ

第四百九條 飲食物ニ付テハ領置ニ關スル規定ヲ適用スルモノトシ

第五百十條 没入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ没入ノ廢棄簿ニ品目、數量並ニ處分ヲ爲シタル理由及ヒ年月日ヲ記載シ典獄之ニ證明ス可シ

第五百十一條 死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受ク可キ者遠地ニ在ルトキハ其請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得但運送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章 賞罰

第五百十二條 賞遇ヲ爲ス可キ者ニハ賞表ヲ付與ス可シ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百十三條 賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用キ上衣ノ左袖肩間ノ表面ニ縫著セシム可シ

第五百十四條 賞遇ハ左ノ如シ

第一 賞遇ニ定メタル接見ノ次數及ヒ第百二十九條ニ定メタル信書發受ノ次數ヲ一回宛増加ス

第二 洗濯衣ヲ自辨テ許スコト

第三 作業ノ變更ヲ許スコト

第四 第七十一條ニ依ル作業賞與金計算高ヲ賞表一箇毎二十分ノ二宛増加スルコト

第五百十五條 賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ賞表ヲ褫奪ス

賞遇ヲ停止セラレタル者ニハ其期間賞表ヲ除去ス可シ

第五百十六條 在監者左ノ各號ニ該ル行爲アルトキハ五十錢以下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得

第一 在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ

第二 人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セントスル者ヲ捕拿シタルトキ

第三 天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第五百十七條 減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第五百十八條 懲罰事犯ニ付キ取調中ノ者ハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第五百十九條 懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲ス可シ

第六十條 懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行ス可シ

戶外運動ヲ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ニ付テハ監獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セシメ其健康ニ害ナシト認メタルトキニ非サレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス

第六十一條 減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ヲシテ時時其健康ヲ診斷セシム可シ

第六十二條 減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者裁判所ノ呼出ニ因リ出頭スルトキハ當日ニ限り懲罰ヲ執行ヲ停止ス可シ

前項ニ掲ケタル者ヲ移監ノ爲メ他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、其當日及ヒ護送中懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第六十三條 戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ハ懲罰ヲ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ヲシテ其健康ヲ診斷セシム可シ

第六十四條 懲罰ニ處セラレタル者ヲ移監ニ因リ受領シタル監獄ノ典獄ハ收監後三日以内ニ懲罰ノ執行ヲ開始ス可シ

收監後執行開始ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第六十五條 在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリタルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得

第六十六條 在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及ヒ懲罰簿ニ記載ス可シ

第十二章 釋放

第六十七條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラレ可キ受刑者ハ釋放前三日以内獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付キ諭告ヲ爲ス可シ

第六十八條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラレ可キ受刑者ニ付テハ釋放ノ十日前迄ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項

ヲ調査ス可シ

第六十九條 典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラル可キ者ノ性格及ヒ行狀並ニ保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署、市區町村役場又ハ本人ノ保護ヲ引受ク可キ者ニ通報ス可シ

第七十條 釋放セラル可キ者ノ領置物及ヒ作業賞與金ハ豫メ交付ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第七十一條 釋放ノ際著用ス可キ衣類ヲ有セサル者ニハ豫メ本人ノ領置金若クハ作業賞與金又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若シ調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與ス可シ

第七十二條 受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ停車場又ハ乘船所迄同行セシメ本人ニ代リ其居住地又ハ歸住地ニ最近ノ場所ニ至ル迄ノ乘車券又ハ乘船切符ヲ購求シ之ヲ本人ニ交付セシム可シ

第七十三條 受刑者ニ付假出獄ヲ許ス可キ事情アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及ヒ執行指揮書ノ謄本並ニ行狀録及ヒ身上調査書類ヲ添ヘ司法大臣ニ具申ス可シ

受刑者軍法會議ニ於テ處斷セラレタルモノナルトキハ前項ノ具申ハ司法大臣及ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ之ヲ爲ス可シ

第七十四條 假出獄ニ因リ釋放ス可キ場合ニ於テハ一定ノ式ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證票ヲ交付ス可シ

第七十五條 假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該ルコトヲ知リタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第七十六條 第七十三條及ヒ第七十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出場ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章 死亡

第七十七條 在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其死體ヲ檢視ス可シ

病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ハ其病名、病歴、死因及ヒ死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名ス可シ

自殺其他變死ノ場合ニ於テハ其旨ヲ警察官署ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及ヒ立會者ノ官氏名竝ニ檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載ス可シ

第七十八條 死亡者ノ病名、死因及ヒ死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報ス可シ死亡者ノ刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第七十九條 受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲メ司法大臣ニ於テ指定シタル病院、學校又ハ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖モ其後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料ス可キトキ又ハ本大カ生前ニ於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第八十條 死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲メ送付シタルトキハ其旨ヲ死亡帳ニ記載ス可シ

第八十一條 死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第七十九條ノ場合ヲ除ク外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬ス可シ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其遺骨ニ付キ亦同シ

假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日時ヲ記シタル木標ヲ立ツ可シ

第八十二條 死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日時ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ立ツ可シ

墓標ニハ石ヲ用ウ可シ

附則

本則ハ監獄法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則施行細則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

第六十六條

地方制

◆府縣制

◆市制

◆町村制

●地方制目次

○府縣制(明治三三、三六、三六日法六四號)

第一章 總則……………一

第二章 府縣會……………一

 第一款 組織及ヒ選舉……………一

 第二款 職務權限及ヒ處務規程……………一

第三章 府縣參事會……………三

 第一款 組織及ヒ選舉……………三

 第二款 職務權限及ヒ處務規程……………三

第四章 府縣行政……………三

 第一款 府縣吏員ノ組織及ヒ任免……………三

 第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及ヒ處務規程……………三

 第三款 給料及ヒ給與……………三

第五章 府縣ノ財務……………三

 第一款 財產營造物及ヒ府縣稅……………三

 第二款 歲入出豫算及ヒ決算……………三

第六章 府縣行政ノ監督……………三

地方制目次

第七章 附則……………三

○市制(明治四四、四、七日法六八號)

附則(大正二、法五五號)……………三

附則(大正二五、法七三號)……………三

第一章 總則……………三

 第一款 市及ヒ其ノ區域……………三

 第二款 市住民及ヒ其ノ權利義務……………三

 第三款 市條例及ヒ市規則……………三

第二章 市會……………三

 第一款 組織及ヒ選舉……………三

 第二款 職務權限……………三

第三章 市參事會……………三

 第一款 組織及ヒ選舉……………三

 第二款 職務權限……………三

第四章 市吏員……………三

 第一款 組織選舉及ヒ任免……………三

 第二款 職務權限……………三

第五章 給料及ヒ給與……………三

第六章 市ノ財務……………三

 第一款 財產營造物及ヒ市稅……………三

地方制目次

第六款 歳入出豫算及ヒ決算……………五〇

第七章 市ノ一部ノ事務……………五一

第八章 市ノ町村組合……………五二

第九章 市ノ監督……………五三

第十章 雜則……………五五

附則……………五五

附則(大正一五、七五號)……………五五

○町村制(明治四四、四、七日、六九號)……………五五

第一章 總則……………五五

第二章 町村及ヒ其ノ區域……………五七

第一款 町村住民及ヒ其ノ權利義務……………五七

第二款 町村條例及ヒ町村規則……………五八

第三章 町村會……………五九

第一款 組織及ヒ選舉……………五九

第二款 職務權限……………六〇

第三章 町村吏員……………七〇

第一款 組織選舉及ヒ任免……………七〇

第二款 職務權限……………七一

第四章 給料及ヒ給與……………七二

第五章 町村ノ財務……………七三

第一款 財産營造物及ヒ町村稅……………七六

第二款 歳入出豫算及ヒ決算……………七六

第六章 町村ノ一部ノ事務……………七九

第七章 町村組合……………八〇

第八章 町村ノ監督……………八一

第九章 雜則……………八一

附則……………八二

附則(大正一五、七五號)……………八二

○市制(明治四四、四、七日、六九號)……………八二

第一章 總則……………八二

第二章 市會……………八三

第一款 組織及ヒ選舉……………八三

第二款 職務權限……………八四

第三章 市長……………八五

第一款 組織及ヒ選舉……………八五

第二款 職務權限……………八六

第四章 市吏員……………八七

第一款 組織及ヒ選舉……………八七

第二款 職務權限……………八八

第五章 給料及ヒ給與……………八九

第六章 市ノ財務……………九〇

地方制

●府縣制(明治三十二年三月十六日)

改正(明治四一年第二號、大正三年第三五號、一
 府縣制(明治三十二年三月十六日)
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル府縣制改正法律ヲ裁可シ茲ニ
 之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ市町村及島嶼ヲ包括ス
 第二條 府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ク法律命令ノ範圍
 內ニ於テ其ノ公共事務竝從來法律命令及慣例ニ依リ
 及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス
 第三條 府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法
 律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ
 府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域
 ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關
 係アル府縣參事會及市町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム
 但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 府縣會

府縣制 總則 府縣會ノ組織及選舉

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス
 選舉區ハ市ノ區域又ハ從前郡長若ハ島司ノ管轄シタル
 區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ
 指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十
 人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル
 每一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル每一人ヲ増
 ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ
 議決ヲ經テ府縣知事ノ之ヲ定ム

議員ノ配當ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣ノ之ヲ定ム
 議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セ
 ス

第六條 府縣內ノ市町村公民ハ府縣會議員ヲ選舉權及被
 選舉權ヲ有ス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セサル者及歸
 休下士官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者
 ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學
 生生徒(勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク)及志願ニ依リ
 國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

市町村公民權停止中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セ
 ス

府縣制 府縣會組織及選舉

在職中檢察、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セ
選舉事務ニ關係アル官吏及吏員其ノ關係區域内ニ於
テ被選舉權ヲ有セズ
府縣ノ官吏及有給ノ吏員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ
者ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス
衆議院議員ハ府縣會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス

第八條 府縣會議員中關員ヲ生シタルトキハ三箇月以内
ニ補選選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ關員ト爲リタル議員カ
第三十一條第二項ノ第三項若ハ第六項ノ規定ニ依ル期
限前ニ於テ關員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第二十九
條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者ア
ルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ於テ關員ト爲リタル者ナ
ル場合ニ於テ第二十九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタ
ル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ
選舉會ヲ開キ其ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ
場合ニ於テハ第三十二條第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 第四項及第五項ノ規定ハ補選選舉ニ之ヲ準
用ス

第九條 府縣會議員ノ選舉ハ其ノ府縣内ニ於ケル市町村
補選議員ハ其ノ前任者ノ後任期間在任ス

於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期間中經過
シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ
辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選舉ノ期日ノ前日マ
テ議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲スコトヲ得
議員候補者ハ選舉長ニ届出ヲ爲スニ非サレハ議員候補
者タルコトヲ辭スルコトヲ得
前四項ノ届出アリタルトキ又ハ議員候補者ノ死亡シタ
ルコトヲ知リタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示ス
ルコトヲ得

第十三條 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲サム
ル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

第十四條 市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事
務ヲ擔任ス

第十五條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ルハ

府縣制 府縣會 組織及選舉

會議員選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ
町村制第三十八條ノ町村ニ於テハ同法第十八條乃至第
十八條ノ五ノ規定ニ準シ選舉人名簿ヲ調製スヘシ
前項ノ選舉人名簿ハ之ヲ町村會議員選舉人名簿ト看做
シ第一項ノ規定ヲ適用ス

第十條 削除

第十一條 削除

第十二條 削除

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之
ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フ
ヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選舉ノ期日
前二十日ヨリマテニ之ヲ發スヘシ

第十四條 府縣知事ハ當該選舉區又
ハ投票區ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ投票ノ期日前
七日ヨリマテニ之ヲ告示スヘシ

第十五條 議員候補者タルトスル者ハ選舉ノ期日
前告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日ヨリマテニ其ノ
旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

第十六條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ
登錄セラレタル者ノ中ヨリ本人ハ承諾ヲ得テ投票立會
人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ前日マテニ投票管理者ニ届
出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者
タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人
ハ其ノ職ヲ失フ

第十七條 投票立會人三人ニ達セサルハ投票立會人ニシテ
三人ニ達セサル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサ
ルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサル者投票立會人ニシテ
投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登錄セラ
レタル者ノ中ヨリ三人ニ達スルマテ投票立會人ヲ選
任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票立會人ハシムヘシ

第十八條 投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコト

投票所ニ之ヲ設ク
投票管理者ハ選舉ノ期日前五日ヨリマテニ投票所ヲ告示
スルコトヲ得

ヲ得ス
第十七條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス
 投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ
 前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者投票所ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
 投票ハ一人一票ニ限ル
 選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經又ハ確定裁決書若ハ判決書ヲ提示シテ投票ヲ爲スヘシ
 投票時間内ニ投票所ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得
 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ
 投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス
 投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之

ヲ文字ト看做ス
 自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ
 選舉人名簿調製ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テ仍選舉權ヲ有スルトキハ前住所地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ
 第三十二條第一項若ハ第三十六條ノ選舉又ハ補關選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第十八條ノ二 確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス
 確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラレルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ
 同府縣内ニ於ケルニ以上ノ市町村ニ於テ公民權ヲ有スル者ハ住所地市町村ニ於テ投票ヲ爲スコトヲ得
第十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ
 前項ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票管理

者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ
 前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ
 投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ
第二十條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ
第二十一條 投票管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日マテニ市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票録及選舉人名簿ヲ選舉長ニ送致スヘシ
第二十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得
第二十三條 選舉長ハ市長又ハ府縣知事ノ指定シタル官吏ヲ以テ之ニ充ツ
 選舉長ハ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス
 選舉會ハ市役所又ハ選舉長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク
 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ
第二十三條ノ二 府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキ

ハ區劃ヲ定メテ開票區ヲ設ケルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設ケル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十四條 第十六條ノ規定ハ選舉立會人ニ之ヲ準用ス
第二十五條 選舉長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日選舉會ヲ開キ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ但シ場合ニ依リ投票函ノ送致ヲ受ケタル日選舉會ヲ開クコトヲ得
 前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第十九條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ
 選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票區毎ニ投票ヲ點檢スヘシ
 天災事變等ノ爲選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ選舉長ハ更ニ其ノ期日ヲ定ムヘシ
第二十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得
第二十六條ノ二 選舉會場ノ取締ニ付テハ第十七條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス
第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノノ
 一 投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタ
 ルモノ
 四 被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
 五 議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ
 爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタル
 モノハ此ノ限ニ在ラス
 六 議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ
 七 議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモ
 八 府縣會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
 前項第八號ノ規定ハ第八條、第三十二條又ハ第三十六
 條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス
 第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉
 長之ヲ決定スヘシ
 第二十九條 府縣會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得
 タル者ヲ以テ當選者トス但シ其ノ選舉區ノ配當議員數
 ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以
 上ノ得票アルコトヲ要ス
 當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ
 取リ年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム
 第二十九條ノ二 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ

有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ此ノ場合ニ於テ
 第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第二十九條ノ三 第十三條ノ二第一項乃至第三項ノ規定
 ニ依ル届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議員
 ノ定數ヲ超エサルトキハ其ノ選舉區ニ於テハ投票ヲ行
 ハス
 前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選
 舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理若シテ通知シ併セテ之ヲ告
 示シ且府縣知事ニ報告スヘシ
 投票管理若シテ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ
 告示スヘシ
 第一項ノ場合ニ於テハ選舉長ハ選舉ノ期日ヨリ五日以
 内ニ選舉會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當選者ト定ムヘ
 シ
 前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選舉權ハ有無ハ選舉
 立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ
 第三十條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル願末ヲ
 記載シ之ヲ期讀シ二人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ署
 名スヘシ
 選舉錄、投票錄、投票其ノ他ノ關係書類ハ選舉長ハ府
 縣知事ノ指定シタル官吏選舉長タル場合ニ於テハ府縣
 知事ニ於テ、府縣會議員選舉ニ用キタル選舉人名簿
 ハ市町村長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 當選者定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ當選
 者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示
 シ且選舉錄及投票錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告ス
 且當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選舉錄及
 投票錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ
 當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當
 選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ
 一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當
 選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉ニ應
 スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ
 前二項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭
 シタルモノト看做ス
 第六條第六項ニ掲ケタル在職ノ官吏以外ノ官吏ニシテ當
 選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ニ
 應スルコトヲ得ス
 前項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ム
 ル期間ヲ二十日以内トス
 府縣ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ府縣ニ於テ費用ヲ負擔スル
 事業ニ付府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請
 負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ
 爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選
 シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人
 若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、

役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ
 應スルコトヲ得ス
 前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清
 算人ヲ謂フ
 第三十一條ノ二 選舉長ハ前條第一項ノ報告ヲ爲シタル
 トキハ直ニ選舉人名簿ヲ町村長ニ返付スヘシ
 第三十二條 當選者左ニ掲ケル事由ノ一ニ該當スルトキ
 ハ三箇月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定
 ニ依リ更ニ選舉ヲ行フコトヲダシテ當選者ヲ定メ得ル
 場合ハ此ノ限ニ在ラス
 一 當選ヲ辭シタルトキ
 二 數選舉區ニ於テ選舉ニ當リタル場合ニ於テ第三十
 一條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ選舉ニ應シタ
 ル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者タラサルニ至リタルト
 キ
 三 第二十九條ノ一ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルト
 キ
 四 死亡者ナルトキ
 五 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ當選無効ト
 爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル
 選舉又ハ補選選舉ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ
 在ラス
 六 第三十四條ノ二ノ規定ニ依リ訴訟ノ結果當選無効

ト爲リタルトキ
 前項ノ事由第三十一條第二項、第三項若ハ第六項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第二十九條第二項ノ規定ニ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ
 前項ノ場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第一項ノ期間ハ第三十四條第七項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ選舉ヲ行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス
 第一項ノ事由議員ノ任期滿了前六箇月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定員ノ三分ノ二ニ滿タサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ
第三十四條 選舉人又ハ議員候補者選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條第一項又ハ前條第二項ノ告示ノ日ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得
 前項ノ異議申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ
 府縣知事選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得
 前二項ノ場合ニ於テハ府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ
 本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事又ハ選舉長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第八條 第三十二條又ハ第三十六條第一項若ハ第三項ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

府縣會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス
第三十四條ノ二 衆議院議員選舉法第一百條ノ規定ノ準用ニ依リ當選者無効ナリト認ムルトキハ選舉人又ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ其ノ裁判確定ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得
 前二項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得
 衆議院議員選舉法第八十五條、第八十七條及第四百四十一條ノ規定ハ前三項ノ規定ニ依ル訴訟ニ之ヲ準用ス
第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選者失フコトヲ得
第三十六條 選舉無効ト確定シタルトキハ三箇月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項ノ規定ヲ準用ス
 當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三箇月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ
第三十七條 府縣會議員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第三十一條第七項ニ掲ケル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無又ハ第三十一條第七項ニ掲ケル者ニ該當スルヤ否ハ府縣會議員力左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除ク外府縣參事會其ノ異議ヲ決定ス
 一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ
 二 破產者ト爲リタルトキ
 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ
 府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲被選舉權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之ヲ爲其ノ職ヲ失フコトナシ但シ同府縣内ニ於テ住所ヲ移シタル後被選舉

舉權ヲ失フヘキ其ノ他ノ事由ニ該當スルニ至リタルト
 府縣會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者又ハ第
 三十一條第七項ニ掲クル者アリト認ムルトキハ之ヲ府
 縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會
 議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコト
 ヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ之
 ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉
 權ヲ有セサル者又ハ第三十一條第七項ニ掲クル者アリト
 認ムルトキ亦同シ

第三十四條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出
 訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起ス
 ルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ
 又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十八條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ
 其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示
 ス

第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉
 法第十章及第十一章並第四百四十四條第二項及第四百四十二

條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選
 舉事務所ノ數ニ選舉委員及選舉事務員ノ數並選舉運動
 ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ
 關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十一條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ニ關スル事
- 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣
 稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
- 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 六 積立金穀等ノ豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ
 負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 七 財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令
 中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

第四十二條 府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事
 會ニ委任スルコトヲ得

第四十三條 府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十四條 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見
 書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申
 ス

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣
 會召集ニ應ゼス若ハ成立セズ又ハ意見ヲ呈出セサルト
 キハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲ス
 コトヲ得

第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受ケ
 一カラス

第四十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選
 舉スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長
 副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ
 選舉スヘシ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代
 理ス年長同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官
 吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ
 議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之
 ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコト
 ヲ得ス

第五十條 府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス
 臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク
 其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付テハ其ノ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ
 閉會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之
 ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條 府縣會ハ府縣知事之ヲ召集スルヘシ但シ
 召集ハ開會ノ日前十四日目マテニ告示スヘシ但シ急施
 ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非
 サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條 府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數
 ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員事ヲ
 議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兒
 弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與
 スルコトヲ得ス但シ府縣會ノ同意ヲ得タルトキハ會議
 ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ
 行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外一名毎
 ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以

テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第十八條及第二十七條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス

第一項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用ウルコトヲ得

第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定ム其ノ日ノ會議ヲ閉閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定員ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ

開カサルトキハ第四十八條ノ例ニ依リ

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依リ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第五十八條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意

ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員三名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ク

會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ府縣會ヲ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 府縣參事會

第一款 組織及選舉

第六十五條 府縣參事會ヲ置キ議長及名譽職參事會員十人ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十八條第二十七條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス

名譽職參事會員中關員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補關ス其ノ順序ハ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依リ選舉同時ナルトキハ得票數ニ依リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ニ依リ仍關員アル場合ニ於テハ臨時補關選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ隔年之ヲ選舉スヘシ

名譽職參事會員ハ後任者ノ就任スルニ至ルマテ在任ス

府縣會議員ノ任期滿了シタルトキ亦同シ

名譽職參事會員ハ其ノ選舉ニ關スル第八十二條第一項ノ規定ニ準ジ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スル權ヲ失ハス

第六十七條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故爾アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス

第二款 職務權限及處務規程

第六十八條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケ

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ

三 府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルヲ暇ナシト認ムルトキ

府縣會ニ代テ議決スル事

三 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財產及營造物ノ
 四 府縣會ノ重要ナル事項ヲ議決スル事
 五 府縣會ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定
 六 府縣會ニ在ラス
 七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル
 第六十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ
 選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ検査セシムルコトヲ
 得
 前項ノ検査ニハ府縣知事又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ
 吏員之ニ立會フコトヲ要ス
 第七十條 第四十四條第四十五條第四十九條第五十一條
 第三項第五十五條第五十七條第一項及第六十二條ノ規
 定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス
 第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ召集ス若名譽職
 參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由ヲ
 示シテ認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ召集ス

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム
 第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サズ
 第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職
 參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開
 クコトヲ得ス
 府縣參事會ノ議事ハ名譽職參事會員ノ過半數ヲ以テ決
 ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
 以上ノ二署名スヘシ
 第七十四條 第五十四條ノ規定ハ議長、其ノ代理者及名
 譽職參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員
 ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事
 ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六
 條第四項ノ順序ニ依リ臨時ニ充テ仍キ其ノ數ヲ得サル
 トキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時
 指名シ其ノ代理者共ニ補充スヘシ
 議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會
 員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ
 第四章 府縣行政
 第七十五條 第一款 府縣吏員ノ組織及任免
 前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス
 第七十六條 府縣吏員ノ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經臨時若ハ常設ノ委
 員ヲ置クコトヲ得
 委員ハ名譽職トス
 委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ
 經府縣知事之ヲ定ム

ル事務ノ一部ヲ市町村吏員ニ補助執行セシム若ハ委任
 スルコトヲ得
 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ
 一部ヲ府縣ノ官吏吏員ニ委任シ又ハ府縣吏員ニ臨時代
 理セシムルコトヲ得
 第八十一條 府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行
 フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金
 及解職トス
 府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ
 吏員ノ停職ヲ命ジ或給料ヲ支給セサルコトヲ得
 懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職
 ニ選舉セラレ若ハ任命セラレタルコトヲ得ス

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス
 府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
 一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
 二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ
 議案ヲ發スル事
 三 財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ア
 ルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
 四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
 五 證書及公文書類ヲ保管スル事
 六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ
 使用料手數料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
 七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事

第八十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ
 權限ヲ超エ又ハ法律命令若ハ會議規則ニ背クト認ムル
 トキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指
 揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ
 又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メ
 サルトキハ之ヲ取消スヘシ
 前項ノ取消處分ハ府縣會又ハ府縣參事會開會中ニ非サ
 ルトキハ之ヲ告示スヘシ
 第一項ノ取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ
 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルト

第七十九條 削除
 第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬ス

府縣制 府縣行政 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程
 二五

キハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條 府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ内務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

府縣參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ク事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ク財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣

會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ク事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ク財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣

知事之ヲ定ム

第九十五條 有給府縣吏員ノ退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム

第九十六條 退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十七條 給料旅費退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

第五章 府縣ノ財務

第一款 財產營造物及府縣稅

第九十八條 府縣ハ積立金穀等ヲ設ケルコトヲ得

第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付キ手數料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル業務ニ付キ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百條 本法中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百一條 府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第一百三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ヲ定ム其ノ所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第一百四條 府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百五條 三箇月以上府縣内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ週リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百六條 府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行為ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行為ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百七條 納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滞在同時ニ府縣ノ内外ニ渉ル者ノ前項以外ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニシテ賦課スヘシ

第八條 府縣ノ内外ニ渉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業又ハ其ノ收入ニ對シ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅附加稅所得稅附加稅又ハ礦產稅附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

礦區又ハ砂鑛區カ府縣ノ内外ニ渉ル場合ニ於テ礦區稅又ハ砂鑛區稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ礦區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニシテ賦課スヘシ

第九條 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第十條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ對シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ課稅スルコトヲ得

府縣ノ公益止其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ府縣稅ヲ課セサルコトヲ得

賦課徵收ニ關シテハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

過料ヲ科シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十六條 第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料及手數料ノ徵收並夫役及現品ノ賦課ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事、其ノ委任ヲ受ケタル官吏又ハ市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日没マテノ間營業者ニ關シテハ

コトヲ得

第十一條 府縣ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ府縣ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ府縣ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第十二條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣内一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條 府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第十四條 詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ府縣稅ヲ遁脫シタル者ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ遁脫シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手數料及府縣稅ノ

仍其ノ營業時間家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅ノ使用料、手數料、夫役又ハ現品ニ代フル金額、過料其ノ他ノ府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

急迫ノ場合ニ於テ夫役又ハ現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ履行ヲ爲ササルトキハ更ニ之ヲ金額ニ換算シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

第二項ノ規定ニ依ル督促又ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限マテニ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スヘシ

第二項及第三項ノ規定スル府縣ノ徵收金ノ先取特權ノ順位ハ國稅徵收金ニ次クモノトス

府縣ノ收入金及支拂金ニ關スル時効ニ付テハ國稅收入金及支拂金ノ例ニ依ル

府縣知事ノ委任ヲ受ケタル官吏員力第四項ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ規定ニ依ル處分ニ係ル差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ府縣ノ永
久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ
爲必要ナル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起
スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起
債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラズ府縣參
事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款 歳入出豫算及決算
第十八條 府縣知事ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ
年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ
豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財產
表ヲ提出スヘシ

第十九條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ
追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第二十條 府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期
シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出
スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年各年度ノ
支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第二十一條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツ
ル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決シタル費途ニ
充ツルコトヲ得ス

第二十六條ノ四 府縣組合ノ組合府縣數ヲ増減シ共同
事務ノ變更ヲ爲シ其ノ他規約ヲ變更セムトスルトキ又
ハ府縣組合ヲ解カムトスルトキハ關係府縣ノ協議ニ依
リ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產處分
ヲ要スルトキハ關係府縣ノ協議ニ依リ之ヲ定ム

第二十六條ノ五 前三條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ府
縣會ノ議決ヲ經ルトコトヲ要ス

第二十六條ノ六 公益上必要ナル場合ニ於テハ內務大
臣ハ關係アル府縣會ノ意見ヲ徵シ府縣組合ヲ設ク若ハ
之ヲ解キ組合規約ヲ定メ若ハ之ヲ變更シ又ハ財產處分
ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條ノ七 府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別段
ノ規定アル場合ヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用ス但
シ府縣組合ニハ參事會ヲ置カス其ノ權限ニ屬スヘキ事
項ハ組合事務ヲ管理スル府縣知事之ヲ行フ

第六章 府縣行政ノ監督
第二十七條 府縣ノ行政ハ內務大臣之ヲ監督ス
第二十八條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケ
又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十一
日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタル
モノハ此ノ限ニ在ラス
行政訴訟ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁決書ノ
交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

第二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ內務大臣
ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第二十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計
ヲ設クルコトヲ得

第二十四條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會
ニ報告スヘシ
決算ハ之ヲ內務大臣ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘ
シ

第二十五條 豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關
スル必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第二十六條 府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償
責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章ノ二 府縣組合
第二十六條ノ二 府縣ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理ス
ル爲其ノ協議ニ依リ規約ヲ定メ內務大臣ノ許可ヲ得テ
府縣組合ヲ設クルコトヲ得

第二十六條ノ三 府縣組合ノ規約ニハ其ノ名稱組合ヲ
組織スル府縣組合ノ共同事務組合會ノ組織事務ノ管理
費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ
府縣組合ノ事務ハ內務大臣ノ指定シタル府縣知事之ヲ
管理ス

第八十二條第二項ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタル場合ニ
於テハ告示ノ日ヲ以テ處分ヲ受ケタル日ト看做ス
決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二
項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定
ニ依ル
異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリ
ト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ
申立人ニ交付スヘシ
異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政
廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認
ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第二十八條ノ二 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メ
タルモノヲ除ク外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三箇
月以内ニ之ヲ爲スヘシ
府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月
以内ニ之ヲ裁決スヘシ

第二十九條 內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背反セ
サルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ內務大臣
ハ之ヲ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ
徵シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ
有ス

内務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第三百三十條 内務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第三百三十一條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ府縣會ヲ招集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス内務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第三百三十二條 府縣吏員ノ服務規律ハ内務大臣之ヲ定ム

第三百三十三條 左ニ掲ケル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 削除

二 使用料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 削除

四 第一百十一條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ府縣ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト

五 削除

六 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

七 削除

第三十四條及第五十一條中十四日トアルハ二十五日トス

第三百二十九條 町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町

村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村吏員ニ準スヘキモノニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第三百二十九條ノ二 第四十九條及第七十六條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監亦之ヲ行フ

第四百十條 從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市郡部部ノ經濟ヲ分別シ市郡部會郡部會市郡部參事會郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四百十一條 明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマテ其ノ效力ヲ有ス

第四百十二條 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

第四百十三條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ第二章第

府縣制 附則

府縣制 附則

第三百三十四條 府縣債ヲ起シ又ハ起債ノ方法利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケヘシ但シ第百十七條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ依ラス

第三百三十五條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第三百三十六條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第七章 附則

第三百三十七條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第三百三十八條 島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ヲ設クルコトヲ得

町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

沖繩縣ニ於テハ第十三條中二十日トアルハ三十日、七日トアルハ十日、第十五條中五日トアルハ十日、第三十一條中十日トアルハ二十日、二十日トアルハ三十日、

一款中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

第四百十四條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第四百十五條 從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域内ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ内務大臣之ヲ定ム

第四百十六條 明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第四百十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (大正十一年法律第五十五號)

本法中選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

府縣制 附則

一年勅令第二百五十五號ヲ以テ選舉ニ關スル規定以外ノ規定ハ同年五月十五日ヨリ施行)

大正十年法律第五十八號又ハ法律第五十九號中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行セサル市町村ニ於テハ府縣制中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付之ヲ施行シタルモノト看做ス

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第九條乃至第十二條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

附則 (大正十五年法律第七十三號)

本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第二百三號)以テ議員選舉ニ關スル規定ヲ除ク外同年七月一日ヨリ施行

次ノ總選舉ニ至ルマテノ間從前ノ第九條、第十二條、第十四條、第二十一條、第二十三條乃至第二十五條、第三十條及第三十四條ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得(大正十五年勅令第二百四號)以テ特別ヲ定ム

大正十五年市制中改正法律又ハ町村制中改正法律中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行セサル市町村ニ於テハ府縣制

中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付之ヲ施行シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ議員ノ選舉ニ必要ナル選舉人名簿ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

大正十五年市制中改正法律又ハ町村制中改正法律中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行シタル市町村ニ於テハ府縣制中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付次ノ總選舉ニ至ルマテノ間未タ之ヲ施行セサルモノト看做ス

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●市制 (明治四十四年四月七日法律第六十八號)

改正 大正一〇年第五八號、一一年第五六號、一五年第七四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル市制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 市ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於

テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルトキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ內務大臣之ヲ定ム

第四條 市ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキ其ノ處分ニ關シテハ前條第二項ノ例ニ依ル

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係市町村ニ交付スヘシ

第二項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ

訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第七條 市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

第二款 市住民及其ノ權利義務

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ二年以上市住民タル者ハ其ノ市公民トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 禁治產者及準禁治產者
- 二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者
- 三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受ケル者
- 四 一定ノ住居ヲ有セサル者
- 五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃

至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲タル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七、六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲ケル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第一項二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セラルル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止スルコトヲ得

一、疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二、業務ノ爲常ニ市内ニ居ルコトヲ得サル者

三、年齢六十年以上ノ者

四、官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五、四年以上名譽職市吏員、名譽職參事會員、市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六、其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者ハ未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第十二條 市條例及市規則

市條例ヲ設ケルコトヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市規則ヲ設ケルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

一、人口五萬未滿ノ市 三十人

二、人口五萬以上十五萬未滿ノ市 三十六人

三、人口十五萬以上二十萬未滿ノ市 四十人

四、人口二十萬以上三十萬未滿ノ市 四十四人

五、人口三十萬以上ノ市 四十八人

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬ノ人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員四人ヲ增加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セズ但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 削除

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設ケルコトヲ得選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數

ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム第七十六條又ハ第七十九條第二項ノ規定ニ依リ市公民タル者ニシテ市内ニ住所ヲ有セサル者ニ付テハ市長ハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ職權ニ依リ其ノ選舉區ヲ定ムヘシ

被選舉人ハ各選舉區ニ通シテ選舉セラレルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設ケルコトヲ得

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有スル在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セズ

選舉事務ニ關係アル官吏及市ノ有給吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セズ

市ノ有給ノ吏員教員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ市ノ市會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム但シ副員アルトキハ其ノ副員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ議員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ニ滿テサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付市長抽籤シテ解任スヘキ者ヲ定メ議員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ヲ超ユルトキハ解任ヲ要スル者ニ充ツヘキ議員ハ最モ先ニ議員ト爲リタル者ヨリ順次之ニ充テ議員ト爲リタル時同シキトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アル場合ニ於テ選舉區アルトキハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ム但シ解任ヲ要スル者ノ選舉區ニ議員アリタルトキハ其ノ議員ヲ以テ之ニ充ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

選舉區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十二條 市會議員中議員ヲ生シタルトキハ三月以内ニ補選舉行フヘシ但シ第三十條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ規定ニ準用ス

定テ準用ス

第三十三條第五項及第六項ノ規定ハ補選選舉ニ之ヲ準用ス

補選議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

選舉區アル場合ニ於テハ補選議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第二十一條 市長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區アルトキハ選舉區毎ニ之ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ例ニ依リ選舉人名簿ヲ調製セシムヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ姓名、住所及生年月日等ヲ記載スヘシ

第二十一條ノ二 市長ハ十一月五日ヨリ十五日間市役所(第六條ノ市ニ於テハ區役所)又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ

市長ハ縦覽開始ノ日前三日目迄ニ縦覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十一條ノ三 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市長(第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テ)ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縦覽期間滿了後三日以内ニ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ

決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條ノ四 選舉人名簿ハ十二月二十五日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ十二月二十四日迄之ヲ据置クヘシ

前條ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ヲ修正スルトキハ市長ハ直ニ之ヲ修正シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ修正セシムヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

投票分會ヲ設クルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ヲ抄本ヲ調製スヘシ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

第二十二條ノ五 第二十一條ノ三ノ場合ニ於テ決定若ハ

裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ選舉人名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縦覽、確定及異議申立ニ對スル市會ノ決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

市ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ名簿ニ關シ其ノ分合其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 市長ハ選舉ノ期日前七日目(第三十九條ノ二ノ市ニ於テハ二十日目)迄ニ選舉會場(投票分會場ヲ含ム以下之ニ同シ)、投票ノ日時及選舉スヘキ議員數(選舉區アル場合ニ於テハ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員數)ヲ告示スヘシ投票分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

總選舉ニ於ケル各選舉區ノ投票ハ同日時ニ之ヲ行フ

投票分會ノ投票ハ選舉會ト同日時ニ之ヲ行フ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ市長ハ其ノ投票ヲ行フヘキ選舉會又ハ投票分會ノミニ付更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場及投票ノ日時ハ選舉ノ期日前五日目迄ニ之ヲ告示スヘシ

第二十三條 市長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

各選舉區ノ選舉會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員

市ニ於テ選舉長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長(第六條ノ市ニ於テハ區長)ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉區アルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

投票分會ハ市長ノ指名シタル吏員投票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長(第六條ノ市ニ於テハ區長)ハ分會ノ區劃内ニ於タル選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ投票立會人ヲ選任スヘシ

選舉立會人及投票立會人ハ名譽職トス

第二十四條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者ハ選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラズ

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ投票分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第二十五條ノ二 確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉人名簿ニ登錄セラレルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

第二十五條ノ三 投票ノ拒否ハ選舉立會人又ハ投票立會人之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉長又ハ投票分會長之ヲ決スヘシ

投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

投票分會長又ハ投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第二十六條 第三十三條若ハ第三十七條ノ選舉、増員選舉及補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 市長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ投票分會長會場ノ秩序ヲ紊スル虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十五條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉區アル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第二十七條ノ二 選舉長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日(投票分會ヲ設ケタルトキハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日)選舉立會人立會人上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第二十五條ノ三第二項及第四項ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ選舉立會人之ヲ決定ス可同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ更ニ開票ノ期日ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選舉會場ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ更ニ其ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十七條ノ三 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條ノ四 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ開票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設ケタル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヤサルモノ

二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

一

被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵
位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此
ノ限ニ在ラス

七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第二十九條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同
數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第三十條 市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル
者ヲ以テ當選者トス但シ議員ノ定數(選舉區アル場合
ニ於テハ其ノ選舉區ノ配當議員數)ヲ以テ有效投票ノ
總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコト
ヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シ
キトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シ
テ之ヲ定ムヘシ

第三十條ノ二 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ有
セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第三十一條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル願末
ヲ記載シ之ヲ朗讀シ一人以上ノ選舉立會人ト共ニ之ニ
署名スヘシ
各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄(第六條ノ市ニ於テハ其ノ

非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内
ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選
ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當
選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタル
モノト看做ス

市ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業
ニ付市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス
者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人
ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者
ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主ト
シテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ
支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコ
トヲ得ス第二項又ハ第三項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ市長ニ
申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス
前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清
算人ヲ謂フ

第三十三條 當選者左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スルトキ
ハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ
依リ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場
合ハ此ノ限ニ在ラス
一 當選ヲ辭シタルトキ
二 數選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ前條第三項

寫)ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ
投票分會長ハ投票錄ヲ作り投票ニ關スル願末ヲ記載シ
之ヲ朗讀シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘ
シ
投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄ヲ選舉長ニ送致ス
ヘシ

選舉錄及投票錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類
ト共ニ議員ノ任期間市長(第六條ノ市ニ於テハ區長)ニ
於テ之ヲ保存スヘシ

第三十二條 當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者
ニ當選ノ旨ヲ告知シ(第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ
之ヲ告知セシメ)同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且
選舉錄ノ寫(投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫)ヲ
添ヘテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直
ニ其ノ旨ヲ告示シ且選舉錄ヲ寫(投票錄アルトキハ併
セテ投票錄ノ寫)ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタ
ル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當
選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應
スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テ
サルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム
官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケルニ

ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ當選ニ應シ又ハ抽籤ニ依
リ一ノ選舉區ノ當選者ト定マリタル爲他ノ選舉區ニ

於テ當選者タラサルニ至リタルトキ

三 第三十條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四 死亡者ナルトキ

五 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無
效ト爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ
依リ選舉又ハ補關選舉ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ
限ニ在ラス

前項ノ事由前條第二項、第三項若ハ第五項ノ規定ニ依
ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第一項但書ノ
得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキ又ハ其ノ
期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第二項ノ規
定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ
者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選
者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ第三十條第一項但書ノ得票者ニシテ
當選者ト爲ラザリシ者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ
有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ
得ス
第二項ノ場合ニ於テハ市長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時
ヲ告示スヘシ
第一項ノ期間ハ第三十六條第八項ノ規定ノ適用アル場

合ニ於テハ選舉ヲ行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期滿了前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定數ノ三分ノ二ニ滿チサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ市長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

第三十六條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十二條第一項又ハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於

テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十二條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ第三十二條第一項又ハ第三十四條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二項若ハ第六項ノ判決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項若ハ前項ノ判決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十條、第三十三條又ハ第三十七條第一項若ハ第三項ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

市會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ

又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十七條 選舉無効ト確定シタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十三條第五項及第六項ノ規定ハ第一項及前項ノ選舉ニ之ヲ準用ス

第三十八條 市會議員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第三十二條第六項ニ掲グル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無又ハ第三十二條第六項ニ掲グル者ニ該當スルヤ否ハ市會議員力左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外市會之ヲ決定ス

一、禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ

二、破產者ト爲リタルトキ

三、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四、選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

市長ハ市會議員中被選舉權ヲ有セサル者又ハ第三十二條第六項ニ掲グル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條第九項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十九條 第二十一條ノ三及第三十六條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、市會ノ決定ハ市長直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條ノ二 勅令ヲ以テ指定スル市(第六條ノ市ノ區ヲ含ム)ノ市會議員(又ハ區會議員)ノ選舉ニ付テハ府縣制第十三條ノ二、第十三條ノ三、第二十九條ノ三及第三十四條ノ二ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ

第二十三條第三項及第五項、第二十五條第五項及第七項、第二十五條第三項、第二十八條、第二十九條、第三十三條第一項並第三十六條第一項ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得（大正十五年勅令第二百一十一號參看）

第三十九條ノ三 前條ノ規定ニ依ル選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一章並第四百四條第二項及第四百四十二條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數並選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

前條ノ規定ニ依ル選舉ヲ除クノ外市會議員（又ハ第六條ノ市ノ區ノ區會議員）ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十一條、第九十二條、第九十八條、第九十九條第二項、第一百條及第四百四十二條ノ規定ヲ準用ス

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歳入出豫算ヲ定ムル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、市税又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ

第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理ヲ議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十七條 市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セシ、召集ニ應セシ若ハ意見ヲ提出セシ又ハ市會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選舉スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十九條 議長故障アルトキハ副議長ノ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年長同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許ス

ヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得

第五十一條 市會ハ市長之ヲ召集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ召集スヘシ

市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ召集スルコトヲ得

召集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日迄之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目迄告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

市會ハ市長之ヲ開閉ス

第五十二條 市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十四條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、

子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法律勅令ニ依リ市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トシ過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者トシ過半數ヲ得タル者ナキトキハ其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テ其ノ投票ニシテ第二十八條第一號、第六號及第七號ニ該當スルモノハ其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ同條第二號、第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テ過半數ノ投票ヲ得タル者選舉スヘキ定數ヲ超ユルトキハ最多數ヲ得タル者ヨリ順次選舉スヘキ定數ニ至ル迄ノ者ヲ以テ當選者トシ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決ス

第五十七條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定ム其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十九條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依リ非サレバ其ノ日ノ會議ヲ閉ジ又ハ中止スルコトヲ得

第五十八條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ汚リ言

論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊メ議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表示シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テハ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

第六十二條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

市制 市參事會 組織及選舉 市吏員 職務權限

第六十三條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 市參事會 組織及選舉

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 市長

二 助役

三 名譽職參事會員

前項ノ外市參事會ヲ置ク市ニ於テハ市參事會ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限り會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十五條 名譽職參事會員ノ定數ハ六人トス但シ第六條ノ市ニ在リテハ市條例ヲ以テ十二人迄之ヲ増加スルコトヲ得

名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員中副員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フ

名譽職參事會員ハ隔年之ヲ選舉スヘシ
 名譽職參事會員ハ後任者ノ就任スルニ至ル迄在任ス市
 會議員ノ任期滿了シタルトキ亦同シ
 名譽職參事會員ハ其ノ選舉ニ關シ第九十條ノ處分確定
 シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權
 ナシハス
 第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障ア
 ルトキハ市長代理者之ヲ代理ス
 第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ
 一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタ
 ルモノヲ議決スル事
 二 削除
 三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件
 第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ召集ス名譽職參事會員
 定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ召集スヘ
 シ
 第六十九條 市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス
 第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事
 會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコ
 トヲ得ス但シ第二項ノ除外ノ爲名譽職參事會員其ノ半
 數ニ滿タサルトキ同一ノ事件ニ付召集再同ニ至ルモ

仍名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ
 應ズルモ出席名譽職參事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出
 席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、
 兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參
 與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ
 會議ニ出席シ發言スルコトヲ得
 議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ
 名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス
 第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條
 第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至
 第五十九條第六十一條第六十二條第一項及第二項ノ
 規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス
 第四章 市吏員
 第一款 組織選舉及任免
 第七十二條 市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市
 ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム
 助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得
 特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參與ヲ置ク
 コトヲ得其ノ定數ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ
 第七十三條 市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス
 市長ハ其ノ退職セムトスル日前三十日目迄ニ申立ツル
 準スヘキ者、清算人又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコ
 トヲ得ス
 第七十九條 市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副
 收入役ヲ置クコトヲ得
 第七十五條 第一項及第二項、第七十六條、第七十七條
 並前條第三項ノ規定ハ收入役及副收入役ニ之ヲ準用
 ス
 市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入
 役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄
 弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス
 第八十條 第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員
 トシ市長之ヲ任免ス
 第七十七條 第一項及第七十八條第二項ノ規定ハ區長ニ
 之ヲ準用ス
 第八十一條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入
 役及區副收入役各一人ヲ置ク
 區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助
 役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間及其ノ相互
 ノ間ニ父子兄弟タル緣故アラサル者ニ就キ市長之ヲ命
 ス
 區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市
 收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル緣
 故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ

ニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ市會ノ承認
 ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第七十四條 市參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一
 部ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十
 二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ
 市參與ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム
 名譽職市參與ハ市民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル
 第七十五條 助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス
 助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム市長職ニ在ラザ
 ルトキハ市長ニ於テ之ヲ選舉ス
 第七十三條 第三項ノ規定ハ助役ニ之ヲ準用ス
 第七十六條 市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規
 定ニ拘ラス在職ノ間其ノ市ノ公民トス
 第七十七條 市長市參與及助役ハ第十八條第二項又ハ第
 四項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得又其ノ市ニ對シ
 請負ヲ爲シ又ハ其ノ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付
 市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者及
 其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限
 責任社員、取締役、監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人
 及支配人タルコトヲ得ス
 第七十八條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ
 他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス
 市長有給市參與及助役ハ會社ノ取締役、監査役若ハ之ニ

區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市
 收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル緣
 故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ

失フ 前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區
副收入役ニ之ヲ準用ス
第八十二條 第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ
爲メ區劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得
前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トシ市民中選舉權
ヲ有スル者ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム
內務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲ス
ヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區長ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二
項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ
準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第八十三條 市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得
委員ハ名譽職トシ市會議員ノ名譽職參事會員又ハ市公
民中選舉權ヲ有スル者ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ
定ム但シ委員長ハ市長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與
若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ク
ルコトヲ得
第八十四條 市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員
又ハ職ニ就キタルカ爲市民タル者選舉權ヲ有セサル
ニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ
前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪

第九十條 市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ
越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長
ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示
シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執
行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ
前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサ
ルトキハ市長ハ府縣參事會ノ議決ヲ請フヘシ但シ特別
ノ事由アルトキハ再議ニ付セシテ直ニ裁決ヲ請フコ
トヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但
シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市長市會又ハ
市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ市ノ收支ニ關
シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又
ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付ス
ヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘ
シ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサ
ルトキハ市長ハ府縣參事會ノ議決ヲ請フヘシ
市制 市吏員 職務權限

爲豫密又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其
ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其
ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス
第八十五條 前數條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員
ヲ置キ市長之ヲ任免ス
前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
第八十六條 前數條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條
第三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ置キ區長ノ申請
ニ依リ市長之ヲ任免ス
前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
第八十七條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス
市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案
ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スルコト
二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ
置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
四 證書及公文書類ヲ保管スル事
五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入
金、市稅又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事
六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項
第八十八條 削除

前項ノ裁決ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ內務大
臣ニ訴願スルコトヲ得
第六項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スル
コトヲ得
第九十一條 市會成立セサルトキ、第五十二條但書ノ場
合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於
テ市會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會
ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ
得
前項ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ市
長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス
市參事會成立セサルトキ又ハ第七十條第一項但書ノ場
合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ
議決スヘキ事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ
得
市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セ
サルトキハ前項ノ例ニ依ル
市會又ハ市參事會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四項
ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會又ハ府縣參事會
ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ
提起スルコトヲ得

第一項及前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十二條 市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ市長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條ノ二 市參事會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ市長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第九十三條 市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲メ要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條 市長ハ其ノ事務ノ一部ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十五條 市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ

屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス

第九十六條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十七條 收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十三條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

市長ハ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市會ハ市長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

第九十八條 第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ

定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス

第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲メ要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務及國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項ニ規定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百條 名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アル

トキ之ヲ代理ス

第一百一條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第一百二條 第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第一百三條 第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五章 給料及給與

第一百四條 名譽職市參與、市會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲メ要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職市參與、名譽職區長、名譽職區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第一百五條 市長、有給市參與、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第一百六條 有給吏員ニハ市條例ノ定ムル所ニ依リ退職

料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者

ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ申立アリタルトキハ市長ハ七日以内ニ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ市ノ負擔トス

第六章 市ノ財務 第一款 財産營造物及市税

第九條 收益ノ爲ニスル市ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第十條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 市ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設ケルコトヲ得

第十二條 市ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第十三條 市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第十四條 市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨ス

第十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第十八條 三月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトヲシト雖市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行為ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行為ニ對シテ賦課スル市

物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 市ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設ケルコトヲ得

第十二條 市ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第十三條 市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第十四條 市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨ス

第十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第十八條 三月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトヲシト雖市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行為ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行為ニ對シテ賦課スル市

第二十條 市會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 市ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設ケルコトヲ得

第十二條 市ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第十三條 市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第十四條 市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨ス

第十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

市稅ノ賦課スルコトヲ得ルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

前四項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百二十一條 市ノ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市稅ヲ課セサルコトヲ得

第百二十二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同ク數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第百二十三條 市稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十四條 數人又ハ市ノ一部ニ對シテ利益アル事業ニ關シテハ市ノ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シテ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條 夫役又ハ現品ハ直接市稅ヲ準率ト爲シ且

者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百二十七條 市稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第百二十八條 市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越エル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

市ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市稅ヲ減免スルコトヲ得

第百二十九條 使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

詐偽其ノ他ノ不正ノ行為ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ市稅ヲ通脫シタル者ニ付テハ市條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ通脫シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ過料ヲ科スル

規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料及市稅ノ賦課徵收ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財産又ハ營造物ノ使用ニ關

之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第百六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第百二十六條 非常災害ノ爲必要アルトキハ市ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ市長、警察官吏又ハ監督官廳ハ市内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタルシ亦同シ

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百三十條 市稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ市長ハ七日以内ニ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴訟又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

市制 市ノ財務 財産營造物及市稅

第三百三十一條 市税、使用料、手数料、加入金、過料、過意金其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ
 夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サズ又ハ夫役現品ニ代フル金銭ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スベシ
 前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徴收スルコトヲ得
 滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スベシ
 第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
 前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三百三十二條 市ハ其ノ負擔ヲ償還スル爲、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要ナル場合ニ限り市債ヲ起スコトヲ得
 市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
 市長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スベシ
第二款 歳入出豫算及決算
第三百三十三條 市長ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ
 市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
 豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スベシ
第三百三十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得
第三百三十五條 市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得
第三百三十六條 市ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設ケヘシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得
豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス
第三百三十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スベシ
第三百三十八條 市ハ特別會計ヲ設ケルコトヲ得
第三百三十九條 市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ原本ヲ收入役ニ交付スベシ
 收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得命令ヲ受ケルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ
第四百十條 市ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル
第四百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且每會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スベシ
 検査ハ市長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス
第四百十二條 市ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス
 決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審查シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スベシ
第四百十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム
第七章 市ノ一部ノ事務
第四百十四條 市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財產又ハ營造物ノ屬スル市ノ一部ノ負擔トスルニ關シ前二項ノ場合ニ於テハ市ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スベシ
第四百十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ市會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得
第四百十六條 區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ
 區會議員ノ選舉ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異